

令和2年(2020年)度 現代社会学部
自己点検評価報告書
—教育研究活動の実績—

1. 概 要
2. 概 況
3. 教養教育
4. 語学教育・国際交流
5. 専門教育
6. 情報教育
7. 留学生教育
8. 教育改善・F D活動
9. 学生生活・生活支援
10. キャリア支援・公務員
11. 地域交流・地域貢献
12. ホームページ・広報活動
13. 研究活動
14. 後援会・保護者対応

令和3年(2021年)8月

1. 概要

1. 実績・現状

(1) 学部教育目標の達成

富山国際大学は「共存・共生の精神と知性を磨く教育を基本に、時代の潮流に対応できる、健全にして個性豊かな人材を育成して、国際社会および地域社会の発展に寄与する」ことを基本理念としている。平成 20 年度より発足した現代社会学部の教育目標は、「これからの 21 世紀を支える、国際的センスを持った、地域に精通し、かつ常に時代の潮流に対応できる実践的な人材を育成する」ことであり、13 年間継続し、ようやく学部として地域、高校への存在が定着してきた。

地域のグローバル化に対応できる人材の育成に貢献するため、観光専攻、環境デザイン専攻、経営情報専攻に加え、新たに 4 つ目として地域のグローバル化に対応できる人材育成を強化するため、英語国際キャリア専攻を発足させ、2019 年度には 2 年生 7 名が海外留学をし、2020 年度は新型コロナウイルス感染症（以下、「新型コロナ」と略記。）の影響で 2 年生 9 名がオンライン留学を行なった。さらに、2019 年度からは情報教育を強化するため新たなカリキュラムを導入した。各専門教育を通して、地域社会や国際社会に貢献できる人材の育成を目指して教育研究活動を実施している。

また、2018 年度からスタートした第二次アクションプラン（2018-2022）の 3 年目を迎え、入学定員の確保を第一目標に、学生に選ばれる学部として存続するよう一層の教育の充実を目指す。平成 31 年度入試では前年に続き入学者は定員を大きく上回ったが、令和 2 年度では受験者が増加したにもかかわらず、多くの辞退者を出し、定員をわずかに満たさなかった。（平成 31 年度 146 名、121%、令和 2 年度 114 名）。今後は、教育内容の充実、施設、通学環境などの点で学生の満足度が向上するように教員が一丸となって努力する必要がある。

学園の教育目標である国際化と情報化に対応する人材の育成を大学教育においても強化し、令和 4 年度入学者向けにカリキュラムの強化を推進する。

(2) 分野別特色

1) 教養教育

本学の教育理念・目標に沿い、共存・共生のアプローチ科目（社会生活基礎科目・社会理解基礎科目）、時代の潮流へのアプローチ科目（情報化対応科目・国際化対応科目）、実学的アプローチとしてキャリア・実務科目、きめ細やかな教育実践として教養演習科目を開講している。自校教育についても「現代社会概論」で実施し、学長、学部長による講義を通して学生たちの大学に対するブランディング意識の定着を目指している。

教養ゼミでは初年次教育の徹底、キャリアデザイン講座では e ラーニングシステムの活用による SPI 教育にも力を注いだ。また、アカデミック・アドバイザー会議を月 1 回程度開催し、ゼミ生の状況や運営について情報交換を行った。

2) 語学教育・国際交流

国際人としての能力の向上を目指すため、能力別クラス編成による「基礎英語」の必修化、TOEIC や英語国際キャリア専攻設置に伴う、英語のみによる授業などを導入した英語力の向上、東アジア地域での国際活動に必要な「中国語」「韓国語」「ロシア語」など副専攻プログラムにも対応できるような語学力の向上をめざし、1 か月以上の留学などにも対応できるようカリキュラムを整備している。TOEIC の受験生も英語国際キャリア専攻学生が全員受験した。

しかし、今年度は新型コロナの影響で海外留学・海外研修は全て中止せざるを得なかつ

た。長期海外留学が進級要件である現社・英語国際キャリア専攻では、2年生9名がやむなく協定校の米ミズーリ州立大のオンライン授業を約4か月間履修した。コロナ禍で、予定していた協定校からの教員受け入れなどの交流事業は実現しなかったが、国際化をテーマにした講座や講演会を計2回実施した。

3) 専門教育

「基礎科目」「地域づくり科目」「国際交流科目」「情報科目」からなる学部共通科目と、観光・環境デザイン・経営情報・英語国際キャリアの専攻科目、さらに、他専攻の科目を学ぶことによって幅広い知識を身に付ける。

学部共通科目の位置づけと同科目からの必要単位数の換算方法が複雑であるため、次年度の新カリキュラムに向けて、学部共通科目の位置づけ、名称、単位修得方法を見直す。

地域づくり実習の発展形として専攻ごとの「実習」を必修化して、地域課題解決能力を育成するため、地域の施設・企業などの現場や実習場所に出向き、実践活動を行いながら、専攻教育の理解を深めている。海外での研修については今年度は新型コロナのために実施することができなかった。経営情報専攻では情報教育科目の新科目を2019年度に開設し、2年目を迎えた。大学教育の総まとめとして、卒業研究論文の作成では、「卒業論文要旨集第5巻」を発刊した。全103件の論文の内、地域課題に取り組んだテーマは50% (52件) であった。

4) 情報教育

情報教育の強化を進めている中、新規に開講された「情報社会と情報倫理」の受講は106人(学部定員の88.3%)に達しており、情報化の進展に伴う各種の社会的課題を多くの学生が認識していることを示している。また、「情報システム論」・「eマネジメント論」・「情報技術論」の3科目を受講することで国家資格「ITパスポート」試験の準備ができるため、同資格を取得する学生の数も増えている。

対外的な活動としては、開学30周年記念シンポジウム「デジタルトランスフォーメーション(DX)時代における人材育成」を10月31日(土)に開催した。リアル会場(富山国際会議場)とオンライン会場の同時開催とし、リアル会場に68名、オンライン会場に55名、合計123名の参加があった。

次年度に向けては、内閣府・文部科学省・経済産業省の3府省が推進する政策に対応した「数理・データサイエンス・AIリテラシー教育プログラム」の準備を進めた。また、次年度から開始する「情報スペシャリスト養成プログラム」のカリキュラム検討を行った。国家資格「ITパスポート」の上位資格である「情報セキュリティマネジメント」と「基本情報技術者」の取得を目指して、新たに「情報セキュリティマネジメント」、「情報システム開発技術」、「デジタルトランスフォーメーション特別講義」の3科目を新設することを決定した。

5) 留学生教育

令和2年度は学部留学生、交換留学生、合計30名であった。日本語教育はブレースメントテストの成績によりクラス分けしている。学部留学生は全員卒業までに日本語能力検定試験でN1合格を目指しているが、達成率は4年生で5割を切っており、まだ努力が必要である。日本の地域社会と触れ合う体験活動は、新型コロナのため自粛せざるを得なかった。地域の国際化に伴い、観光地での通訳ボランティア(中国語)として参加し、評価を得ているが、新型コロナの影響で帰国できない、生活困窮など様々な支援などの対応が必要であった。

6) 教育改善・FD活動

学部学務委員会、学部FD委員会が中心となり教育改善・FD活動を推進した。各専攻の専門科目の内容の見直しや「学部共通科目」のあり方など、2021年度のカリキュラム改

正に向けて検討を行った。FD 研修では、オンライン授業に関する学園での研修会に参加したほか、学部の FD 研修会を、教育の IT 化、大学における SDGs の活性化、AI の動向というテーマで計 3 回実施した。

7) 学生活動・生活支援

今年度は新型コロナのため、各種行事・イベントが中止されたが、一方で、感染防止対策に留意しながら、大学オリジナル日本酒造り、オンラインを通じた大学祭の開催など新たな学生主体の活動も進められた。簡易コンビニの設置は、年度内に実施できず、次年度の事業として継続する。学生生活アンケートの結果では交通の便の悪さを指摘する声が目立ったが、一方で自然環境の素晴らしさを評価している学生もいた。学友会やクラブ会などの代表者との学長等の教員との意見交換会を実施し、大学構内、学内施設の環境整備に関する要望(トイレ、駐車場の融雪など)やオンライン授業の配信に関する要望(補講を休日に実施、対面授業との併用など)があり、適宜改善できるよう検討することとした。学生生活支援チームによる学生の情報共有と対策の迅速化を図るため、担当部門を決め対策を講じた。

8) キャリア支援

キャリア支援体制として、初年次よりキャリア教育を導入しているが、配慮を要する学生が一定数おり、こうした学生への対応に詳しい適切な人材が必要である。一方で、新型コロナ禍にもかかわらず就職環境はよく、就職希望者 89 名に対して 4 月末で 100% となった。公務員(入善町役場、富山県警察)・金融・一般企業への内定状況は概ね順調であり、本学から就職実績のなかった情報通信業への就職者も出ている。公務員講座を設置して 7 年目に入り、これまでの方法から、外部支援を WEB で受講する少数精鋭による方法で対応しているが、少数ながら合格者を出している。インターンシップについては、参加者が 2019 年度に続き減少しており(23 名参加)、実施方法について検討する必要がある。海外インターンシップについては、新型コロナ禍により実施できなかった。

9) 地域交流・地域貢献

主に本学園サテライト・オフィス「地域交流センター」で実施している、エクステンション・カレッジ及び同プレビュー講座により、地域貢献を行っている。新型コロナのため活動に制限がかかる中で、包括連携協定を結んでいる南砺市とは、「南砺市長とのタウンミーティング」を 10 月に、「学生による企画・プレゼンテーションコンテスト」を 2 月に実施した。黒部市、黒部商工会議所とは、交流協定に基づき国際化推進事業(宇奈月温泉におけるアジア観光客拡大の可能性に関する探索的調査)について報告と意見交換が行われた。地域での貢献活動(出講・審議会委員・マスコミ出演等)や学生によるコンペディションへ参加するなど、今後も地域との連携を通して実践力のある教育を行うことが必要である。

10) HP・広報活動

大学からの積極的な広報活動として、ホームページでの掲載をリアルタイムで行うように努めた。特に新型コロナに関する情報発信を HP と学生へのメールの両方を利用して、適時に行なった。今年度は新型コロナの影響で行事・イベントの中止が多く、「ニュース&イベント」への投稿件数掲載数は昨年比べて減少した(216 件→196 件)。大学の特色ある授業、大学のイベント、学生の活動、教員の社会活動や研究などに関して積極的に報道機関に取材依頼した。今後も積極的に HP、マスコミともに活用する。

11) 研究活動

教員の研究活動は、学会発表、論文発表の件数により評価した。紀要論文では多くの教員が執筆したが、昨年に続き査読論文の件数は十分とは言えない。また、論文の投稿に関して、研究倫理の研修を徹底した。競争的資金等による採択研究の実績を集計した。科研費採択では研究代表者の採択は 1 名であった。新型コロナ蔓延によって研究活動が制限され

たことも研究活動の低調化に拍車をかけた。今後は一層の研究環境の整備が必要である。

13) 後援会・保護者対応

2020 年度は新型コロナ禍のため対面での総会は開催されず、郵送による審議が行われた。保護者懇談会は、前期は新型コロナ感染防止のため開催せず、後期は対面や電話相談の形式で 46 件の相談があり、教職員による個々の学生の指導の実態に対する保護者の関心の高さが伺える。

2. 今後の課題

(1) 入学定員の確保

令和元年度入学者数は 146 名と大幅に定員を上回った。一方、不本意入学や学習意欲の低い場合などを含め退学者も増加したが、本年度は念願であった総定員 480 名を満たすことができた。令和 2 年度入学者は 95%と、受験者の動向は昨年と異なった。平成 30 年度に発足した英語国際キャリア専攻生は、2019 年度は当初 15 名の希望者があったが、転専攻を希望する学生が続き、就職実績などの課題もある。本学の受け入れ学生の質（推薦と一般入試合格者の学力差）改善と入学者の定員確保の両面から戦略的な取り組みが必要である。

(2) 少人数教育の魅力を活かした指導

近年の入学者の学力は着実に偏差値が高くなっている一方で、一人ひとりが目標を持ち、モチベーションを持続させる教育指導が求められる。教員自身の研究を教育に反映させることと、多様な学生に対する指導についての研修がますます重要になっている。

(3) 情報教育と国際教育を軸とした教育の充実

情報教育については、IT に強い情報教育のカリキュラムと資格提供の充実に向けた準備を進めたので、今後は資格取得に向けて着実な成果をあげる必要がある。国際教育については、英語国際キャリア専攻の発足により、語学や国際教養系科目が充実してきたが、英語国際キャリア専攻を希望する学生は多くなく、学部の国際化の推進とともに、当該専攻の魅力度を高める必要がある。

(4) 教員の研究

若手教員が増え、研究内容も充実してきたが、科研費などの採択実績や投稿論文数は少なく、今後は教員の研究環境の確保が課題である。教員同士が切磋琢磨し刺激を与え合うような機会を設ける。

(5) その他

少子化の影響により入学者数も減少傾向にある中で、2019 年度は 146 名、2020 年度は 114 名の入学者を受け入れることができた中で、学生自身や保護者の家庭環境などは多様であり、経済事情、家庭での親子関係、クレーマなどへの対応に苦慮する事例が出てきている。今後は事案によっては早期に大学の顧問弁護士と事前の情報共有、相談などが必要になっている。

3. アクションプランへの自己評価

(1) 2020 年度実施内容と評価

- ① 指針 1(5)ゼミ担当教員が振り返りシートを作成し、半期ごとに学生生活の記録を作成した。(評価：○)
- ② 指針 1(5) e ラーニングを入学前課題、キャリアなどの教材として活用した。(評価：○)
- ③ 指針 2(1)各専攻によるグローバル・キャンパスが単位化されたことからさらに海外体験者増を目指したが、今年度はコロナ禍により、英語国際キャリア専攻生以外はゼロとなった。(評価：△)
- ④ 指針 2(2)習熟度別クラス編成などにより、全学生の英語能力の底上げを図るために、入学時のプレメントテストにより 20 人の 7 クラス編成 (A～G) で英語の授業を実施した。

(評価：△)

- ⑤ 指針 2(2)環境デザイン専攻ではアメリカ・カナダ方面に研修予定だったが、今年度はコロナ禍により実施できなかった。(評価：△)
- ⑥ 指針 2(8)県内の企業・施設・事業所・団体等との連携による実習・講義で、すべての専攻において、企業などの実務者を招いて専門的な内容の充実を図った。(評価：○)
- ⑦ 指針 3(2)夢へのかけ橋事業では学部から 3 件の事業が実施され、学生の活力を高めることができた。(評価：○)
- ⑧ 指針 3(2)キャンパス活性化事業として、1.地域との協働型森作り活動はコロナ禍で中止。
2.環境サークルの花壇整備活動は実施。3.学生と教職員協働のイルミネーション（12 月～2 月まで）は実施。4.コンビニ設置企画（令和 3 年度オープン予定）(評価：◎)
- ⑨ 指針 3(3)学生支援チームの会議を 2 回開催し、情報交換及び課題と対策の意見交換を行った。(評価：◎)
- ⑩ 指針 3(3)学生を取巻くトラブルを回避できるように、オリエンテーション等の機会で啓発することは、コロナ禍により前期には実施できなかったが、後期に外部講師を招いて実施した。(評価：○)
- ⑪ 指針 3(4)チエルネットの活用による英語力の向上については、情報の徹底が不十分であり、利用率は低調であった。（1 年生：19%、2 年生：6%、3 年生 1%、4 年生 3%。
2021 年 1 月までの数値。）(評価：△)
- ⑫ 指針 3(4)基礎学力の向上を目指す **tuins.e**-ラーニングの活用については、キャリア・デザイン a の課題として導入し、全員満点を取るまで繰り返し **e-learning** をすることを課題にしたため、利用率は大幅に上昇した。(評価：◎)
- ⑬ 指針 4(1)OB/OG との連携強化では、2 月の「学内企業研究会」に本学 OB・OG が企業担当として参加し、交流の機会を得ることができた。(評価：○)
- ⑭ 指針 4(1)入学説明会、学外向けイベント、授業やボランティアなどの活動状況を HP 掲載し、大学のアピールに努めた。情報分野に関しては、データサイエンス・AI の寄付講座、30 周年記念シンポジウムなどの記事を掲載し、大学の取り組み状況をアピールした。(評価：○)

(2) 2021 年度実施予定項目

- ① 指針 1(5) 現代社会学部で学期の節目でゼミ担当教員が履修指導とともに振り返りシートを活用してアドバイスをする。
- ② 指針 1(5) 入学前課題とキャリア科目を中心に、引き続き **e** ラーニングを実施する。
- ③ 指針 2(1) 海外渡航が解禁になるまでは、相手校とのオンラインによる交流を推進する。
- ④ 指針 2(2) 能力別クラス編成により能力に応じたレベルアップは実現できているので、引き続き実施する。
- ⑤ 指針 2(2) 海外に渡航することができないため、代替する方法としてオンラインでの交流の可能性を探る。
- ⑥ 指針 2(8) コロナ禍の中で、可能な限り外部との交流を図りながら授業を行う。
- ⑦ 指針 3(2) 夢へのかけ橋事業で学部からの応募者が出るように、教員にも積極的に協力を呼びかける。
- ⑧ 指針 3(2) 引き続き定着してきたキャンパス活性化事業を今年度も実施。また、積極的に学生が参加できる仕組み作りを行う。東黒牧キャンパスの活性化として、キャンパス内に花壇を作り、花で潤う環境を作る。
- ⑨ 指針 3(3) 学部長を中心として学生支援担当教員、健康管理センター、教務課長、学生課長による学生支援チームミーティングを定期的に行い、情報共有を行うとともに学生生活の

支援を行う。

- ⑩ 指針 3(3) 学生が事件・事故に巻き込まれないように、オリエンテーション等の機会を通じて、交通安全・消費者トラブル・薬物などに関する注意喚起を実施する。
- ⑪ 指針 3(4) チェルネットの使用希望者が使えるように全学生に情報配信するとともに、他のプログラムの検討を始める。
- ⑫ 指針 3(4) 引き続き 2020 年度と同様の方法で実施する。
- ⑬ 指針 4(1) 本学卒業生の現況を把握するための調査に向けて準備を進める。
- ⑭ 指針 4(1) 入学説明会、学外向けイベント、授業やボランティアなどの活動状況を HP に掲載し、大学をアピールする。情報分野に関しては、データサイエンス・AI の寄付講座によって PR し、国際化に関してはコロナ禍の状況で可能な取り組みを実施し PR に努める。

2. 概況

1. 実績・現状

(1) 学生の状況

1) 学部生の概要

2020年度富山国際大学現代社会学部在学者数（基本調査）

20200501現在

2020年度実績											
	現代社会学部	現代社会学科	総数	男女別数		県内外別数		男女県内外別数			
				男	女	県内	県外	男県内	女県内	男県外	女県外
1 年 生	在学者数		114	72	42	0	0	0	0	0	0
	休学者数		0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計		114	72	42	0	0	0	0	0	0

	現代社会学部	現代社会学科	総数	男女別数		県内外別数		男女県内外別数			
				男	女	県内	県外	男県内	女県内	男県外	女県外
2年生	在学者数		145	90	55	0	0	0	0	0	0
	休学者数		3	2	1	0	0	0	0	0	0
	合計		148	92	56	0	0	0	0	0	0

	現代社会学部	現代社会学科	総数	男女別数		県内外別数		男女県内外別数			
				男	女	県内	県外	男県内	女県内	男県外	女県外
3年生	在学者数		107	65	42	0	0	0	0	0	0
	休学者数		1	1	0	0	0	0	0	0	
	合計		108	66	42	0	0	0	0	0	0

	現代社会学部	現代社会学科	総数	男女別数		県内外別数		男女県内外別数			
				男	女	県内	県外	男県内	女県内	男県外	女県外
4年生	在学者数		107	65	42	0	0	0	0	0	0
	休学者数		1	1	0	0	0	0	0	0	0
	合計		108	66	42	0	0	0	0	0	0

	現代社会学部	現代社会学科	総数	男女別数		県内外別数		男女県内外別数			
				男	女	県内	県外	男県内	女県内	男県外	女県外
全学年	在学者数		473	292	181	0	0	0	0	0	0
	休学者数		5	4	1	0	0	0	0	0	0
	合計		478	296	182	0	0	0	0	0	0

※表内人数には交換留学生を含まない。

※合計には休学者数を含む

2) 海外学生の出身地（2020年5月1日現在）

国名	1年	2年	3年	4年	計
中国	0	2	3	12	17
ベトナム	0	0	3	0	3
韓国	0	0	0	2	2
ネパール	0	1	0	1	2
計	0	3	6	15	24

*交換留学生、研修生、休学生を含まない

*2+2、学部生を含む

3) 県外学生の出身地（入学者）

令和2年度富山国際大学入学試験状況（学校法人基礎調査 「調査票区分113」資料）

令和2年度入学試験 高等学校卒業年度別 入学志願者数

	令和2年3月卒		平成31年3月卒		平成30年3月卒		平成29年3月卒		平成28年3月卒		外国の学校卒		専修学校の高等課程		その他（認定等）		計		
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計
現代社会	174	126	12	1	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	3	190	130	320
子ども育成	53	201	2	5	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	60	206	266
計	227	327	14	6	4	0	2	0	0	0	0	0	0	0	3	3	250	336	586

※第2志望にて合格している場合、第2志望の学部にて計上。

※留学生については、国内の学校等（富山情報ビジネス専門・富山国際学院）を卒業していても、「外国の学校卒」として扱う。

令和2年度入学試験 高等学校卒業年度別 入学者数

	令和2年3月卒		平成31年3月卒		平成30年3月卒		平成29年3月卒		平成28年3月卒		外国の学校卒		専修学校の高等課程		その他（認定等）		計		
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計
現代社会	69	41	1	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	72	42	114
子ども育成	18	69	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	20	69	89
計	87	110	1	0	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	1	92	111	203

※第2志望にて合格している場合、第2志望の学部にて計上。

※留学生については、国内の学校等（富山情報ビジネス専門・富山国際学院）を卒業していても、「外国の学校卒」として扱う。

富山国際大学令和2年度出身校所在地別入学者数

学部	性別	富山	北海道	宮城	新潟	石川	福井	長野	愛知	大阪	兵庫	山口	大分	長崎	宮崎	鹿児島	認定試験	計
現代社会	男	61	1	1			0	1	1	1	1	1	1	0	2	1	0	72
	女	38	0	0			1	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1	42
	計	99	1	1	0	0	1	1	1	1	1	1	1	1	3	1	1	114
子ども育成	男	17			0	1					1						1	20
	女	68			1	0					0						0	69
	計	85	0	0	1	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	89
計	男	78	1	1	0	1	0	1	1	1	2	1	1	0	2	1	1	92
	女	106	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1	111
	計	184	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	3	1	2	203

※第一学院高等学校および星槎国際高等学校は、通学した学校の所在地ではなく、調査書に書いてある所管の都道府県にて計上。

(2) 教職員

1) 教員組織（2020年5月1日現在）

現代社会学部教員数

区分	人数	内訳	備考
現代社会学部専任教員	19名	教授11（10月より12）、准教授6、講師2	10月より計20名
学园内兼任・兼任講師	4名	子ども育成学部4	
学園外兼任講師	25名	客員教授4名を含む	
計	48名		

2) 事務職員（2020年5月1日現在、東黒牧キャンパス）

東黒牧キャンパス事務職員数

区分	人数	内訳
専任事務職員	20名	部長1、参事1、課長4、係長3、主査5、主事5、運転手1
契約職員	8名	職員8
計	28名	

3. 教養教育（教養授業、教養ゼミ、教育指導）

1. 実績・現状

（1）教養授業

- 1) 教養科目として、①「社会生活基礎科目」7科目、②「社会理解基礎科目」8科目、③「情報化対応科目」2科目、④「外国語科目」16科目、⑤「日本語科目」10科目、⑥「キャリア・実務科目」9科目、⑦「教養演習科目」4科目を開講している。2019年度からの新設科目として、「情報科学概論」、「社会学の基礎」、「地域企業講座」を開講した。「情報科学概論」は情報化に対応できる人材の教育を強化する一環として、「社会学の基礎」は、現代社会を俯瞰するための基礎を学ぶ科目として開講した。また、キャリア科目としての「地域企業講座」（2年次配当）で地元を中心に企業を学び、「キャリアデザイン講座」（1年次配当）と「キャリア支援講座」（3年次配当）との連続性を図った。
- 2) 上記教養科目について、学生の授業評価における「総合評価」ポイントは、5点満点中、ほとんどが4点台であり、授業に対する満足度は高かった。

（2）教養ゼミ

- 1) 教養演習Ⅰ（1年ゼミ）では、これまで前期の早い時期に合同教養演習において「大学生活のためのツールブック」を活用した論文・レポートの書き方指導等を実施してきた。しかしながら、今年度は4月からリモート授業となったため、4月の合同教養演習の実施を見送り、各ゼミの担当教員がゼミごとに同様の内容を指導することとした。なお、従来前期の合同教養演習で実施していた「TUINS eラーニング」、「SPI基礎講座」については、キャリア支援との関係をふまえ、キャリアデザイン講座において実施することとなった。後期の合同教養演習で実施した「北日本新聞連携講座」は、前期にリモート中心であったことをふまえ、現代社会の課題につき討論するディスカッション方式の授業とした。
- 2) 教養演習Ⅱ（2年ゼミ）では、文献の輪読、フィールドワーク、調査したことのまとめと発表およびレポートの作成などを実施した。また、TUINS eラーニングシステムを活用して自主的に学習するよう学生に促した。さらに合同教養演習として、「コンゴの開発と地域コミュニティのエンパワーメント」と題してHungerZero（日本国際飢餓対策機構）のジェローム カセバ氏による講義が行われた。この講義は、学生にNGOの視点から国際協力について考える機会を提供した。
- 3) 大学祭では例年、教養演習Ⅰと教養演習Ⅱのゼミ活動内容を示すパネル等の展示を行っていたが、今年度は新型コロナのため展示の実施は中止とした。

（3）教育指導

- 1) これまで同様、1年、2年ゼミ担当者において、アカデミック・アドバイザー連絡協議会を月1回程度実施し、ゼミ生の様子、ゼミ運営の方法等について、定期的な情報交換を行うとともに、個別的な配慮や指導を要する学生への対応について検討や確認をした。これに加えて今年度は1年生が入学直後からリモート授業となったことを受けて、1年生のアカデミック・アドバイザー連絡協議会を6月までに5回開催し、学生へのきめ細やかな対応をするために教員間の情報共有を徹底した。また、大学生活に関する不安やリモート授業に関する問題に迅速に対応するために、複数回にわたり新入生に対するアンケート調査を実施し、対応を協議した。
- 2) ゼミ担当教員はそれぞれ、ゼミ生の授業への出欠状況を把握するよう努め、授業やサークル活動面での情報を関係各所から得た上で、適宜、学生へのアドバイスや指導（必要な改

善のための指導等）を行った。

- 3) 保護者との連携のために、保護者懇談会を実施し、ゼミ担当教員との懇談を希望する保護者からの相談等に応じるとともに、個別対応が必要と考えられる学生の保護者との面談等も行った。教員の側で保護者との懇談が必要と考える場合には、保護者への成績表送付の際に、ゼミ担当教員によるコメントを付して、懇談会出席の呼びかけ等を行っている。

＊ なお、本年度においての退学者は、1年生2名（他教育機関への転出1名、経済的困窮1名。退学率1.8%）、2年生4名（他教育機関への転出2名、経済的困窮1名、就学意欲の低下1名、退学率2.8%）である。（2021年3月31日現在）。

2. 今後の課題（2019年度に一定程度の改善がなされたものの、引き続き課題とされるものを含む。）

（1）教養授業

- 1) 授業評価アンケートの結果を踏まえ、引き続き継続的な授業改善への取組。
- 2) ディプロマ・ポリシーや他の授業科目との関連を意識した授業内容のさらなる工夫。（その際、前提として、ディプロマ・ポリシーそれ自体をより具体性を持った内容とする見直しが必要ではないかという点についても。学部として考慮することが求められよう。）

（2）教養ゼミ

- 1) 学生の文章作成能力、プレゼンテーション能力の一層の涵養。
- 2) 様々な学習上の困難や問題等を抱えた学生や、GPAの低い学生への指導（とりわけ、奨学金受給資格を失うおそれや退学勧告を受けるおそれがあることとの関連での指導）等のため、アカデミック・アドバイザー連絡協議会と授業担当者、保健管理センターとの一層の連携強化。
- 3) 「ツールブック」のさらなる利活用の可能性についての意見交換や検討の促進。必要ならば、「ツールブックの内容の見直し」を含めた検討も。
- 4) 「より良いゼミ運営」を目指すための教員間における情報交換の拡充に向けた取組。

（3）教育指導

- 1) 学生に長期留学を促す方法、および留学前・留学中の学生に対する指導方法の検討。
- 2) とくに何らかの支援が必要と考えられる学生については、保護者との定期的な懇談会以外にも、適宜、本人や保護者との懇談を行う場を設けること。

（4）全体に共通する課題

- 1) 「どの程度授業理解が進んでいるのか」または「いかなる教育成果があるのか」を、どのように測るのか（測ることができるのか）について、一定の指標を示すことができるかの検討。
- 2) 初年次教育および教養教育そのものに責任を有する学内機関・学内組織またはその体制づくりが必要かについての検討。
- 3) 教養演習Ⅰと教養演習Ⅱの連続性についての検討。

3. アクションプランへの自己評価

（1）2020年度実施内容と評価

指針3(4) 基礎学力の向上を目指すtuins.eラーニングの活用については、キャリア・デザインaの課題として導入し、全員満点を取るまで繰り返しe-learningをすることを課題にしたため、利用率は大幅に上昇した。（評価：◎）

（2）2021年度実施予定項目

指針3(4) 引き続き2020年度と同様の方法で実施する。

4. 語学教育・国際交流

4-1. 英語教育

1. 実績と現状

英語での科目：

【週に1回行う科目】

必修科目・英語 I、英語 II 1年（前・後）、選択科目・1年（前）英語学、選択科目・1年（後）英語音声学、1年（後）Creative Writing、選択科目・1年（前）TOEIC I、選択科目・1年（後）TOEIC II、選択科目・2年（前）TOEIC III、選択科目・2年（前）TOEIC III、選択科目2年（前）Advanced Reading（選択科目・2年（前）TOEIC III）、必修科目・2年（前）Academic Writing I、必修科目2・3年（後期）Academic Writing II、必修科目3年（前）異文化共生論、必修科目・3年（前）多文化共生論、選択科目・3年（前）Presentation and Debate、選択科目・3年（後）国際ビジネス、選択科目・2年（前）国際ジャーナル。

【週に2回行う科目】

選択必修科目・Intensive English I（前）、Intensive English II（後）。

- （1）令和2年度の英語 Iまたは英語 II（1年（前・後）・必修科目）は7クラスで行い、専任教員4名と非常勤講師3名が担当した。英語で行うゼミ（教養演習 I 英語国際キャリア専攻の希望者）を専任教員2名が担当した。
- （2）英語 I・英語 IIに関しては、プレメントテストを行い、英語クラス分けをした。能力（テストの点数）により、現代社会学部で能力別のクラスを作り、原則として前期と後期クラスは変わらないようにした。その結果として、学生が自分の英語力のレベルにふさわしい授業内容・英語練習などを受講した。
- （3）学生が英語を母語としている人と触れ合い、英語のみで自由に色々なトピックについての話ができるイングリッシュ・カフェ（English Café）という施設を開催した。Caféの設備、スペースを拡大し、担当者を3名から4名まで増やした。令和2年度に専任教員がコーディネーターとしてEnglish Caféの利用時間を決め、担当者を管理し、英語に興味を持っている学生を中心に、English Movieのイベントなどを行った。コロナの影響で、English Caféの開催期間は後期のみだったが、訪問回数が400回あった。

2. 課題

英語プレメントテストの内容から始め、英語 I・英語 II の全体的な評価方法と目的を変更する。学部英語教育、留学プログラムと TOEIC などの英語検定をより強く関連させる。イングリッシュ・カフェ（English Café）は、Global Cafe というコンセプトで活動範囲を拡大して、利用者の人数を増やす。

3. アクションプランへの自己評価

（1）2020 年度実施内容と評価

- ① 指針 2(2) 習熟度別クラス編成などにより、全学生の英語能力の底上げを図るために、入学時のプレメントテストにより 20 人の 7 クラス編成（A～G）で英語の授業を実施した。（評価：△）
- ② 指針 3(4) チェルネットの活用による英語力の向上については、情報の徹底が不十分であり、利用率は高くなかった。（評価：△）

（2）2021 年度実施予定項目

- ① 指針 2(2) 能力別クラス編成により能力に応じたレベルアップは実現できているので、引き

続き実施する。

- ② 指針 3(4) チェルネットの使用希望者が使えるように全学生に情報配信するとともに、他のプログラムの検討を始める。

4-2. 中国語教育

【中国語Ⅰ・Ⅱ】（担当：専任教員 1 名、非常勤講師 1 名）

（1）履修者数および成績評価結果

項目	人数（人）	試験結果	備考
履修学生数	前期 60 名 後期 60 名		
期末試験受験者 （前期）	60 名	60 名合格	（内 5 名が再テストで合格）
期末試験受験者 （後期）	60 名	60 名合格	

（2）成績評価基準

- ・シラバスに記述した方針（受講態度 20%、課題 30%、期末テスト 50%）で成績評価（素点）を実施。

（3）授業の成果と問題

- ・前期は、オンラインの形式で講義を進めたが、後期は対面授業が行われた。大多数の受講生の受講態度がよかった。人数が多いにもかかわらず、授業中よく集中し、まじめに積極的に授業を受けた。勉強意欲も例年の学生より高かった。中国語の授業は楽しかったという声があった。教員と学生とのコミュニケーションもよく取れる状態である。授業アンケート分析によると履修者の 80%以上は、中国語授業を受けて満足したという答えがあった。多数の履修者は中国語と中国文化に興味を持つようになったということも分かった。
- ・授業中、言葉の勉強だけではなく、中国文化、事情も取り入れることを心がけた結果、学生のそれらに対する理解と認識度も同時に高められた。中国文化の導入があったから、いっそう中国語の勉強に興味を持たせることができたと思う。
- ・授業は発音・声調、朗読、短文の作成、簡単な会話に重点を置き、一人ひとりにきめ細かな指導を行った。また履修者同士の参加型授業、グループワークもよく取り入れ、学生に作業時間を与えることを心がけた。

<問題>

- ・オンライン授業を実施する場合に、ボート部に所属していた受講生たちは、同じ部屋で受講する形のために、音声効果が良くなかった。部活動をやっている受講生は試合に出たり、遠征に行ったりすることでやむを得ず欠席した回数がやや多かった。

（4）課題と解決方策

- ・オンライン授業の場合、学生の受信環境の改善が必要である。大学からの支援も欠かせないと思う。
- ・事情によって、個別指導を強化しなければならない。
- ・興味を持ってもらうだけでなくクラス全体の学生の勉強意欲、主体的に学ぶことを引き出すことができるような授業の方法を工夫したい。
- ・中国語検定試験向けの練習指導を強化しなければならないこと。一人でも多くの受験者が現れるように努力したい。

【外国語特講中国語】（担当：専任教員 1 名）

（１）履修者数および成績評価結果

項目	人数（人）	試験結果	備考
履修学生数	前期 3 名 後期 3 名		
期末試験受験者数 （前期）	3 名	3 名合格	
期末試験受験者数 （後期）	3 名	3 名合格	

（２）成績評価基準

シラバスに記述した方針（課題 30%、期末テスト 50%、授業態度 20%）で総合的に評価。

（３）到達目標

- ① 中国語の基礎文法を正しく応用できる。
- ② 中国人と日常的な会話ができる。
- ③ 辞書を調べながら一般的な中国語の資料が読め、簡単な通訳・翻訳もできることを目指す。

（４）授業の成果と問題

- ・例年では履修者が多かったが、コロナで、しかもオンラインの授業のため 2020 年度の受講者数が初めて少なかった。しかし少人数の授業なので、一人ひとりにきめ細かな指導を行うことができた。また履修者同士の参加型授業、留学生との交流なども導入した。授業中、学生に作業時間を与えるのを心がけた。
- ・授業を通して、到達目標の①はクリアできたが、②に関しては、もう少し距離があるので、また努力したい。
- ・辞書を参考にしながら翻訳は少しずつできるようになり、簡単な通訳もできるようになった。
- ・言葉の勉強と同時に中国文化、中国事情にも触れられて、大変有意義な授業だという評価があり、受講者の勉強意欲を引き出すことができた。

<問題>

- ・昨年と同じように教室での勉強ばかりをしたが、今後実践練習、観光地現場での勉強と練習をかねての会話を工夫したい。

（５）課題と解決方策

- ・興味を持ってもらうだけでなく、学生が主体的に活躍できる授業の形態になるための工夫をしなければならないと考えている。
- ・大学のチューター制度をもっと有効に活用し、学習者との交流や会話練習などを授業の一環としてしっかりと実施したい。
- ・観光現場での言語実践、中国語の検定試験の受験促進にも力を入れたい。

【観光中国語】（担当：専任教員 1 名）

（１）履修者数および成績評価結果

項目	人数（人）	試験結果	備考
----	-------	------	----

履修学生数	26 名		
期末試験受験者数 (前期)			
期末試験受験者数 (後期)	25 名	25 名合格	(途中 1 名が放棄)

(2) 成績評価基準

シラバスに記述した方針（課題 30%、期末テスト 50%、授業態度 20%）で総合的に評価。

(3) 到達目標

- ①中国語の基礎文法を正しく応用できる。
- ②中国人と日常的な会話ができる。
- ③辞書を調べながら一般的な中国語の資料が読め、簡単な通訳もできることを目指す。

(4) 授業の成果と問題

- ・到達目標の①に関しては、殆どクリアできたが、②に関しては、達成するまで少し距離があり、努力が必要である。③に関しては、基礎的なもの、簡単な程度は問題がないけれども、やや難易度の高いものに対しては無理がある。
- ・言葉の勉強と同時に中国文化、中国事情にも触れられて、大変有意義な授業だという評価があり、受講者の勉強意欲を引き出すことができた。
- ・受講生の中に中国人留学生が 2 名いるので、授業中日本人学生と一緒に交流したり、会話練習をしたりして、チューターの役割もうまく果たしていた。
- ・学生参加型の授業なので、グループワークが良く行われた。

<問題>

- ・今後実践練習、観光地現場での勉強と練習をかねての会話に取り組みたいと思う。

(5) 課題と解決方策

- ・興味を持ってもらうだけではなく、学習意欲を高め、勉強成果をより上げられるように工夫したい。
- ・中国人留学生と履修者との交流や会話練習などを授業の一環として更に強化したい。

4-3. 韓国語教育

1. 実績・現状

韓国語は平成 24 年度入学生から選択必修科目となり、同時に週 2 回の開講となった。2020 年度「韓国語Ⅰ」（履修登録者 27 名。単位取得者 26 名）は、コロナ禍により、急遽オンライン（zoom）授業となり、新たな授業方法でのハングル（文字）と発音の習得、初級文法学習となった。「韓国語Ⅱ」（履修登録者 27 名。単位取得者 25 名）は対面授業に戻ったので、前期オンライン学習で十分ではなかった個別の発音練習に力を入れた。前期学習内容復習後、新たに過去形や仮定形、推量など基礎的文法事項を学習した。

シラバスで「韓国語Ⅰ」の到達目標に掲げた、ハングルの仕組みを覚え、読み書きでき、簡単な自己紹介ができるレベルは受講生の 9 割は到達できたとみている。「韓国語Ⅱ」の到達目標に掲げた基本的な文法事項をマスターし、簡単な会話ができるレベルに到達した学生は前年度に比べ減少したと感じている。

中級以上の韓国語授業が開講されていないので、本格的な韓国語学習は協定校での研修もしくは留学を推奨してきたが、コロナ禍で不可能となった。

2018 年度韓国語Ⅰ・Ⅱを履修した学生が 1 名、韓国留学（2019 年 3 月～2019 年 12 月）して以降、韓国留学は中断している。

2. 課題

ほとんどの受講生が初めて韓国語を学習するので、スタートラインは同じなのだが、前期終了時点では、学生ごとに顕著な理解度の差ができてしまう。これを解消すべく、授業方法の工夫を重ねている。平成 26 年度より自宅学習を促すため、毎週 1 回程度復習用の学習プリントを配付、翌週の授業で回収し点検している。

2019 年度までは韓国の協定校、聖公会大学、大邱大学及び大邱韓医大学からの交換留学生が韓国 I、韓国語 II の授業にチューターとして参加していたが、2020 年度はできなくなってしまった。留学生による発音指導、会話練習、最近の韓国若者事情の情報提供など授業進行と理解促進に大きな助けとなっていただけに、大変残念である。アクティブ・ラーニング（グループワーク）の導入を継続的に進めてきたが、これも 2020 年度はコロナ対策のため実施できなかった。

近年、K-POP から韓国語に関心をもつ学生が増えている。授業でも K-POP MV、PV を視聴し、韓国語聞き取りに使用している。熱心に聞き取ろうとする姿勢が見られ、効果的だと感じている。

4-4. ロシア語教育

1. 実績・現状

ロシア語 I・II は平成 24 年度入学生から選択必修科目となり、同時に週 2 回の開講となった。ロシア語 I・II の授業は初めて学ぶ学生を対象に、やさしく、楽しい授業を展開し、基本的なことを繰り返すことによって、ロシア語の文字、発音、基本的な会話表現、文法を学び、ロシア社会の初歩的な知識も学ぶことができた。シラバスで「ロシア語 I」の到達目標に掲げた「①基本的なロシア語の文章を音読できる。②ロシア語の基本的な文章の構造を理解でき、基本的な文章を「読み、書き、話し、聞く」ことができる。③挨拶などの実用的な表現を覚え、ロシア語で簡単な挨拶、自己紹介などができる」ことが（授業が Zoom で行われたにもかかわらず）達成できた。ロシア語 II の到達目標「①実践的なロシア語を身につける。②ロシア語の文法の知識を深める。③実用的な表現を覚える。」も達成できた。外国語特講（ロシア語）の授業は、アニメや動画を使い、学生が基礎知識を得て、挨拶などの実用的な表現を覚えた。ロシア社会の初歩的な知識も学び、ロシア語圏の国の文化についてより深く学ぶことができた。ロシア語 I の履修者はロシア語スピーチコンテストに参加することを希望していたが、コロナ禍で 2020 年の富山県ロシア語スピーチコンテストが中止となった。

2020 年

項目	人数（人）	備考
ロシア語 I 前期	4 名	Zoom で行った。
ロシア語 II 後期	3 名	対面授業
外国語特講（ロシア語）I 前期	5 名	Zoom で行った。
外国語特講（ロシア語）II 後期	4 名	対面授業
合格者数	16 名	
不合格者数	0 名	

2. 課題

ロシア語を勉強し続けようとした 2 年生・3 年生が少なすぎるため、2 年生がロシア語を勉強し続けるように対策を考える。

4-5. フランス語教育

1. 実績・現状

- ・平成28年度より開講し、令和2年度は5年目の授業科目である。
- ・受講生7名。
- ・学生の授業の出席状況はほぼ皆勤であり、単位が取得できなかった学生もいなかった。
- ・後期では毎回授業開始時に小テストを実施し、前回授業内容の理解度を確認した。
- ・授業では、テキスト以外にシャンソンを聴く、フランス国内各地のDVDの視聴、フランス映画の鑑賞などして、授業が単調にならないような工夫を図った。

2. 課題

- ・2020年度前期はオンライン授業（Zoom）という未曾有の環境であったため、小テストは実施できなかった。しかしながら、受講生は授業には積極的に参加していた。
- ・1年間の授業が終わった後でも、特に発音を難しいと感じている学生が多いので、少人数の特長を活かして、できるだけ発音の機会を多く設定する。
- ・授業で学習した内容を活用できる場面を多く示してあげること。特に「話す」側面に、より比重をおいた授業を心がける。
- ・毎年受講生数が多くない理由の一つは、他の外国語と時間割の開講日が違うという時間割上の問題が考えられるので、開講日の変更の可否を引き続き検討する。

4-6. 国際交流

1. 海外留学・海外研修参加者

2020年度は新型コロナウイルスの世界的流行のため海外留学は中止した。長期海外留学が進級要件である現社・英語国際キャリア専攻では、2年生9名がやむなく協定校の米ミズーリ州立大のオンライン授業を約4か月間履修した。他に子ども育成学部でも1名がカナダの協定校の遠隔授業を履修した。海外研修プログラムも全て中止となった（表10-1、2）。

表 10-1. 学部毎の海外派遣学生数

海外派遣総数	2017		2018		2019		2020	
	81		98		57		0	
各学部	現社	子ども	現社	子ども	現社	子ども	現社	子ども
	54	27	80	18	41	16	0	0
留学	7		11		8		(10)	
	7	0	9	2	8	0	(9)	(1)
インターンシップ	1		2		3		0	
	0	1	2	0	2	1	0	0
研修（教員引率）*	73		85		46		0	
	47	26	69	16	31	15	0	0

* 異文化研修、国際交流実習、ゼミ研修、グローバルキャンパス。()はオンライン留学

表 10-2. 海外留学派遣国内訳

留学内訳	2019			2020		
	合計	現社	子ども	合計	現社	子ども
アメリカ	2	2	0	9	9	0
カナダ	3	3	0	(1)	0	(1)
オーストラリア	1	1	0	0	0	0
イギリス	1	1	0	0	0	0
マルタ	0	0	0	0	0	0
フランス	1	1	0	0	0	0
中国	0	0	0	0	0	0
韓国	0	0	0	0	0	0
ウクライナ	0	0	0	0	0	0
留学合計	8	8	0	(10)	(9)	(1)

表 10-3. 海外研修プログラム参加者数

海外研修内訳	2019			2020		
	合計	現社	子ども	合計	現社	子ども
中国（異文化研修）	7	5	2	0	0	0
韓国（〃）	0	0	0	0	0	0
オーストラリア（〃）	0	0	0	0	0	0
カナダ（〃）	9	0	9	0	0	0
マルタ（〃）	8	6	2	0	0	0
タイ/マレーシア（〃）	0	0	0	0	0	0
デンマーク（環境）	7	5	2	0	0	0
シンガポール/豪（経情）	6	6	0	0	0	0
インターンシップ（加・越）	3	2	1	0	0	0
ゼミ研修	9	9	0	0	0	0
研修合計	8	8	0	0	0	0

2. 外国人留学生受入数（交換留学生を含む）

2020 年春は海外の協定校から編入 1 名、交換留学生 14 名の計 15 名を受け入れ予定だったが、コロナ禍で実現せず、この年の受け入れ数はゼロとなった（表 10-4、5）。政府の新型コロナ感染症水際対策で、国外からの新規入国が認められなかったためだが、一方で、この入国制限が開始される前に既に日本国内にいた外国人学生 2 名（研究生 1 名、交換留学生 1 名）を受け入れることができた。研究生は、富山市内の日本語学学校（協定校）の生徒（国籍：ベトナム）で、交換留学生はフランスの協定校 EMBA の学生（国籍・ドイツ）。2020 年度の（現社の）入学生は 114 名で、入学生全体に占める留学生の割合は 1.7%と、前年の 7.6%を大きく下回った。

前年の 2019 年度に協定校からの交換留学受け入れ希望が増えて、各協定校に対して人数制限依頼を行ったのとは打って変わって、2020 年度末には留学生は 13 名となった。

表 10-4. 2020 年度春受入予定者（編入・交換留学）

	学校名	国籍	性別	編入期間
編入①	哈爾賓理工大学	中国	男	2年
交換①	聖公会大学	韓国	女	1年
〃②	信陽師範学院	中国	女	1年
〃③	信陽師範学院	中国	女	1年
〃④	EMBA-ISUGA	ドイツ	男	半年
〃⑤	南通大学	中国		1年
〃⑥	南通大学	中国	女	1年
〃⑦	鞍山師範学院	中国	女	1年
〃⑧	鞍山師範学院	中国	女	1年
〃⑨	ウラジオストク経済サービス大学	ロシア	女	半年
〃⑩	瀋陽師範学院	中国	女	1年
〃⑪	大連海洋大学	中国	女	半年
〃⑫	大連海洋大学	中国	女	半年
〃⑬	大連海洋大学	中国	女	半年
〃⑭	大邱韓医大学	韓国	女	1年

注:コロナ感染拡大前に入国済みだった④以外は入学を果たせなかった。

表 10-5. 年度別外国人留学生受け入れ数(年度別入学者数)

入学年度	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
学部1年生入学	19	10	16	11	8	6	9	6	5	0
編入学(2+2)	0	4	2	2	1	9	9	2	6	0
交換留学	15	171	15	10	9	14	19	22	22	1
研究生	7	0	8	5	0	3	2	1	2	1
留学生入学者総数	41	31	41	28	18	32	39	31	35	2

表 10-6. 2020 年度正規入学生出身校

出身校	人数	国籍
EMBA	1	ドイツ
富山国際学院	1	ベトナム
合計	2	

3. 留学生の進路（2020 年 9 月及び 2021 年 3 月卒業）

2020 年度の学部卒業生は 2019 年 9 月卒業が 3 名、2020 年 3 月卒業が 8 名の合計 11 名だった。大学院などへの進学者はおらず、国内就職が 5 名。このうち、県内就職は 2 名だった（表 10-7）。

表 10-7. 卒業後の進路(学部卒業生)

No.	出身国	性別	進路
1	中国	女	静岡 (株)エーツー
2	中国	男	大分 (有)こらぼ
3	ネパール	男	静岡 (株)ゼンショーホールディングス
4	韓国	女	富山 (株)プレステージインターナショナル
5	韓国	女	富山 北陸コカ・コーラボトリング(株)

4. TOEIC 受験者数と結果

TOEIC IP テストは例年、年2回実施しているが、コロナ禍で前期は実施を見送った。実施したのは12月20日(日)で、受験者数は19名(現社14名、子ども5名)だった。結果は最高点が785点、最低点が305点だった。470点以下が最も多く、600点以上は両学部合わせて5名、730点以上は3名だった。3名の内訳は、英語国際キャリア専攻の3年生2名と留学生1名。

表 10-8. TOEIC IP テスト学部ごとの集計結果

	全学	現社	子ども
試験日	2020/12/20		
受験人数	19	14	5
～470	11	6	5
470～599	3	3	0
600～729	2	2	0
730 以上	3	3	0
800 以上	0	0	0
平均点	504	543	395
最高得点	785	785	455
最小得点	305	330	305

5. チェルネット

チェルネット(クラウド型英語学習教材「スーパー英語」)の利用を学生全員に推奨している。4年目となった2020年度は、1年生のオリエンテーションのみで利用説明会を行った。現代社会学部のログイン率は1年生で2桁台だったが、その他は両学部ともすべての学年を通じて低調だった。

6. その他語学関連の取組み

- ① English Café はコロナ禍で後期のみ運営し、のべ利用人数は400名だった。前年の利用は通年で620名だった。
- ② English Camp は2学部から11名が参加した。
- ③ グローバル人材2名取得(現代社会学部)。

7. チューター制度の実施

日本人 3 名、留学生 1 名がチューターを行った。日本人チューターは日本語の授業に参加して会話練習の補佐を行った。留学生チューターは、母国語の授業に参加して担当教授のアシストを行った。

表 10-9. チューター参加者 2020 年度

	国籍	性別
1	日本	女
2	〃	女
3	〃	女
4	中国	女

8. 国際化への取組み

コロナ禍で、予定していた協定校からの教員受け入れなどの交流事業は実現しなかった。一方、国際化をテーマにした講座や講演会を実施した。

①大学コンソーシアム富山事業「グローバルチャレンジ入門講座/ポスト・コロナの国際社会に生きる」(11月28日、オンライン)を開講し、本学学生ら約20名が参加した。ゲストは以下の3名。ほかに、留学経験のある学生からの報告では、本学から3名、富山大からも1名参加した。

＜ゲスト・スピーカー＞(敬称略)

- ・大高建設フロンティア事業部 ラズバハク・ホシナ(本学 OG)
- ・国際協力機構(JICA)北陸センター職員 児島淳史
- ・読売新聞アジア総局長 田原徳容

②開学30周年記念講演会「富山から世界へ/万葉の魅力 世界に発信」(12月12日、富山県民会館)では、百人一首字や万葉集の翻訳で定評のある詩人・翻訳家のピーター・マクミラン氏を講師に招き、豊かな万葉の歌の世界を英語で発信する楽しさや英訳の工夫について語ってもらった。

9. 成果と課題

(1) 学生、教職員のグローバル化を目指した取り組みを行ってきたが、海外派遣の促進などの海外との交流は新型コロナウイルスの感染拡大でいずれも実施できなかった。一方、地域の国際化を推進する講演会などの催しを開催し、学生、教職員が参加した。

なお、教職員の英語研修の必要性も感じているが、それ以上に、外国人留学生にとって分かりやすい日本語の使い方や、異文化コミュニケーションについての理解を深める必要があると思われる。それは、単に易しい日本語を使うという意味ではなく、たとえば日本社会で当然視されている習慣などの前提が、十分な説明を省かれがちである、などの問題意識を含んでいる。

(2) 東黒牧キャンパスの English Café は、新型コロナの感染対策で後期のみ運営されたが、前期に大学で対面でのコミュニケーションを十分取れなかった学生たちにとって、貴重な交流の場となった。この Café を拠点に、さらに多様な学生が関われるような催しを開くなどして、学生間の交流を促したい。

(3) 海外派遣学生数を増やす方法のひとつに、Jasso の海外留学支援制度がある。国際交流センター教員を中心に努力し、2020 年度事業として4つのプログラムの奨学金が採択されて

いたが、コロナ禍で実施されなかった。2021 年度も、前年実現しなかったプログラムのうち 3 つが改めて採択されており、新型コロナの感染が収束すれば実施の見込み。

表 10-10. 2020 年度 Jasso 海外支援制度採択プログラム

採択プログラム名
カナダで学ぶ子ども達への教育と福祉
韓国での地域課題解決基盤創造キャンプ
KINABALU ECOLINC PROJECT 協働支援プログラム

(4) 留学生の入学者が減少傾向にあるところに、コロナ禍で一層留学生の減少が進んでいる。下記は、前年から引き継がれている課題である。

- 学部 1 年生：国内の協定校との関係強化を図る。学生に対する説明会の開催や必要な便宜許与。
- 編入 (2+2)：重点校との関係強化。交換留学や教員交流の在り方を再検討し、受験者を確保できそうな協定校（ハルビン理工大学、瀋陽師範大学、南通大学）に重点を置いて交流を深化させ、編入学を働きかける。
- チエルネット（クラウド型英語学習教材「スーパー英語」）の活用：5年間の契約が 2021 年度で終了する。契約終了後、同様の教材を導入すべきかどうか検討が必要である。ただ、現在の学生の利用状況はきわめて低調であり、教材について周知する必要がある。
低調の理由は、コロナ対策で年度初めのオリエンテーションの際に 2 年生以上に利用方法を説明する時間が取れなかったことなど、いくつか考えられるが、1、2 年生の教養演習で夏休みの課題にするなど、利用を促すようなしくみが必要と思われる。

10. アクションプランへの自己点検

(1) 2020 年度実施内容と評価

- ① 指針 2(1) 英語国際キャリアの学生は、新型コロナウイルス感染症の影響により留学はすべて中止となったが、9名の学生がアメリカのミズーリ州立大学へ4カ月間のオンライン留学を実施した。(評価：○)
- ② 指針 2(1) 学部の海外体験については、実施時期を春休みにずらし検討したが、新型コロナウイルス感染症が未だに収束しない状況であり、今年度は実施は不可能と判断し、中止となった。(評価：△)
- ③ 指針 2(2) 新型コロナウイルスの影響により、例年6月に実施していた TOEIC IP テスト試験開催を見送り、今年度は12月開催の1回のみ実施。19名が受験し、結果は470点以上3名、600点以上2名、730点以上3名だった。(評価：○)
- ④ 指針 2(2) English café は新型コロナウイルス感染症の影響により、オンライン授業期間中は学生の学内立入が禁止となったため、運営できなかったが、対面授業が再開されてからは学生が運営を行った。
両学部対象の English Camp は例年、7月を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、11月に1日のみ実施。11名の学生の参加があった。(評価：○)
- ⑤ 指針 2(2) グローバル人材育成プログラムの申請者は現社1名（4年次生）いるが、終了認定結果は3月に決定される予定。(評価：△)
- ⑥ 指針 2(2) ロシア語スピーチコンテストは新型コロナウイルス感染症の影響により中止。(評価：△)
- ⑦ 指針 2(3) 新型コロナウイルス感染症の影響により、今年度は海外提携校との交渉は厳しく、

協定の締結ができなかった。(評価：△)

- ⑧ 指針 2(3) 新型コロナウイルス感染症の影響により、英語国際キャリアの進級要件である留学が未実施となったが、2年生 9 名がオンラインを通し留学を行った。海外大学との教員人事交流も新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止となった。(評価：△)
- ⑨ 指針 2(3) EMBA の学生 1 人(国籍：ドイツ)を除いては、受け入れができなかった。日本政府の新型コロナ水際対策によるもの。(評価：○)
- ⑩ 指針 2(3) 2019 年度から 2020 年度にかけての新型コロナ感染拡大初期に、欧州や北米での留学から帰国した学生らに帰国時の状況について聞き取りを行った。1.帰国の決断がもう少し早めるべきだった 2.保護者と早い時期から連絡を取る必要性があった、などの反省がある。(評価：△)
- ⑪ 指針 2(4) 新型コロナの感染拡大の影響で、海外からの留学生受け入れは全くできなかった。(評価：△)
- ⑫ 指針 2(4) 3～4 年生の学部留学生 20 名のうち 5 名が日本語 1 級取得者。目標の 50%以上の取得とはならなかった。(評価：△)

(2) 2021 年度実施予定項目

- ① 指針 2(1) 新型コロナ収束まで、当面は本学からの留学は「オンライン留学」とせざるをえない。
- ② 指針 2(1) 新型コロナ感染終息までは学生の海外体験は見合わせる。終息の際は、交換留学生、2 + 2 の学部編入併せて、4 ～ 5 名程度の受け入れを目指す。
- ③ 指針 2(2) テストをオンライン版に切り替えることで、学生の利便性が向上することから、受験者数前年度比 10%増を目指す。
- ④ 指針 2(2) English Camp は規模を縮小し、宿泊を伴わない形式で実施予定。English Cafe は飲食を伴う催しは当面開催を避けつつ、より広範な学生に利用してもらえるような催しの実施を検討する。
- ⑤ 指針 2(2) 留学ができない状況での履修には困難があるが、数名程度のグローバル人材育成プログラム履修者を目標とする。
- ⑥ 指針 2(2) コロナ禍でスピーチコンテストは開催中止になるケースが多いため、他の機会を探す。
- ⑦ 指針 2(3) パンデミックの際の在外の本学留学生との連絡などの万一の際の対応を考えると、協定校は本学の規模にあった数にすべきと考える。現在の目標は再考が必要と思われる。
- ⑧ 指針 2(3) 感染の収束に備え、学生・教員交換の準備を滞りなく行う。海外に渡航しての交流に代わる方法として、オンラインでの交流の可能性を探る。
- ⑨ 指針 2(3) 2 + 2 協定のない EMBA に関して、協定締結の可能性を検討する。
- ⑩ 指針 2(3) パンデミック時の、本学からの派遣留学生との連絡方法や、協定校の学生受け入れに関するノウハウを蓄積し、問題点を洗い出す。
- ⑪ 指針 2(4) コロナ禍で秋入学のめどは立っていないが、受け入れの準備は万全なものにして、優秀な学生の確保に引き続き努める。なお、受け入れ目標の「15%」は、受け入れ態勢の充実という観点から再検討が必要と思われる。支援策としてどのようなものが可能で、また有効なのか、改めて関係委員の間で検討する。
- ⑫ 指針 2(4) N1 取得とその支援策として何が可能で有効なのか、改めて関係委員の間で検討する。

5. 専門教育

5－1. 観光専攻

1. 実績・現状

(1) 観光専攻の専攻科目（講義）

2020年度の観光専攻の1、2、3、4年対象の講義科目（観光専攻専攻科目）は、28科目開講され、専任教員4名と非常勤講師6名で担当した。

専攻科目の専任教員担当科目では、授業手法としてAL技法を活用したグループワーク等を使用しながら双方向の授業を行った。授業アンケート等でも、総合評価関する項目では、4点以上（5点満点）で評価は高い。

(2) 観光実習

1) 概要

<目的>

感染が拡大している新型コロナウイルス感染症(COVID-19、以下「コロナ」と略す)によって、世界や日本の観光関連産業は危機的な状況に陥っている。本実習では、「観光はパンデミックにどう立ち向かうのか」をテーマとして、県内外の観光関連産業が危機的状況にどのように立ち向かったのかを考察し、今後パンデミックが再来した場合、今回の経験を活かし、どのように打開していけばよいのかを探ることを目的とする。

<到達目標>

到達目標は次の2点であった。

- ①新型コロナウイルス感染症の拡大が観光や観光産業に及ぼした影響を的確に把握することができる。
- ②感染拡大にあたり、県内外の観光関連産業・関連機関がとった対応策を把握したうえで、パンデミックが再来した場合の打開策について考究することができる。

<実習内容>

上記目的を達成するために次のことを実施した。

- ①実習の目的等の説明。
- ②コロナの感染拡大が観光関連産業に及ぼした影響に関するインターネットや新聞の記事を収集する（関連記事があれば、それも収集する）。
- ③コロナの感染拡大が観光関連産業に及ぼした影響に関する問題点の討論・整理。
- ④県内観光地におけるコロナの影響に関する報告と討論（Zoomで県内の観光関係者を結んで討論会）。
- ⑤県外観光地におけるコロナの影響に関する報告と討論（Zoomで県外の観光関係者を結んで討論会）。
- ⑥報告書の作成。
- ⑦最終報告会。

<成果>

コロナ禍での授業であったが、Zoomを使ったミーティングで県内外の観光関係者と意見交換ができたことが学生にとっても刺激的であった。

(3) 専門演習Ⅰ、Ⅱ

2020年度 観光専攻卒業研究タイトル

ゼミ	No.	タイトルーサブタイトルー
湯	1	エコツーリズムによる観光振興とサステイナブルツーリズムとの関係についてー富山県内の取り組みをもとにー
	2	スマート・ベニューによる都市観光の可能性に関する考察ー富山市総合体育館をもとにー
	3	富山観光への期待ー中国遼寧省観光客の事例を中心にー
	4	コロナウイルス発生した日本観光業の現状への考察
	5	観光資源としての美術館ー富山市の美術館をもとにー
	6	「ゆるキャラ」による地域振興に関する考察ー富山県内の「ゆるキャラ」の現状をもとにー
	7	立山黒部アルペンルート観光の実態と今後の可能性
	8	マラソン大会による観光振興の可能性に関する考察ー富山マラソンの取り組みをもとにー
	9	独立リーグによる地域活性化の可能性に関する考察ー富山サンダーバーズの取り組みからー
佐藤	10	観光による黒部市の地方創生
	11	イベントによる地域の活性化に関する研究
	12	妖怪における民間伝承と観光の関わりに関する研究ー境港市と遠野市の事例をもとにー
	13	富山市観光振興の現状と課題ー金沢市との比較をもとにー
	14	世界遺産と観光ー歴史を学ぶ場としての世界遺産ー
	15	朝日町における観光を通じた地域活性化に関する研究
	16	富山のリピーター獲得に向けた観光行動に関する研究
	17	ロケ誘致による地域活性化の可能性に関する考察ー富山県ロケーションオフィスの事例をもとにー
	18	コロナ禍で過ごすこれからの観光ー金沢市を事例としてー
	19	地域の観光資源の魅力創出に関する研究ー聖地のある金沢・八尾地域を事例としてー
	20	eスポーツによる地域活性化に関する研究ー高岡市を事例としてー
	21	中国での聖地巡礼の発展の可能性に関する研究ー日本の経験に基づいてー
	22	外国人にとって日本のコンビニの魅力ー中国人を中心にー
助重	23	博物館の写真撮影解禁とSNSを利用したPRの効果ー富山県立山博物館の事例を中心としてー
	24	富山県出身の著名人が県のイメージ形成に果たす役割
	25	地域社会における道の駅の役割ー富山県の取り組みをもとにー
	26	インターネット普及以前と以後における旅の変化ー旅行予約と情報収集を中心としてー
	27	少子高齢化進行地域における地域活性化の取り組みー朝日町への移住を中心としてー
	28	ご当地ラーメンによる観光振興の可能性ー富山カラーラーメンの取り組みをもとにー
	29	Bリーグによる地域活性化の可能性ー富山グラウジーズの取り組みをもとにー
	30	動画配信による観光誘客の可能性と課題ー動物園と水族館を中心にー
	31	新湊内川沿いの観光関連施設における新型コロナウイルス感染拡大への対応
	32	富山市八尾地区における景観まちづくり推進とその課題ー滋賀県長浜市との比較をもとにー
	33	着地型観光による地域振興への取り組みとその課題ー北海道弟子屈町の事例を中心にー
	34	外国人観光客から見た富山県の魅力ーニューツーリズムの視点から見たインバウンド観光の実態と今後の取り組みー
一井	35	富山県と石川県の観光振興に関する比較研究ー金沢市と富山市の動向に着目してー
	36	アニメツーリズムと観光振興の関係性に関する研究ー南砺市の取り組みを事例としてー
	37	寝台列車の課題と現状ークルーズ列車とサンライズの比較研究ー
	38	富山県における2次交通の利便性に関する研究ー訪日台湾人の動向に注目してー

専門演習Ⅰは4名の教員、専門演習Ⅱも4名の教員で担当した。4年次38名は卒業論文を書き上げ、2021年2月に卒業論文発表会を行った。

2. 今後の課題

(1) 観光専攻の専攻科目

観光専攻の専攻科目の授業アンケート結果は、比較的高い評価点であるが、講義内容、教育手法に関しては、引き続き専攻内でも検討する必要がある。ビデオ教材が多すぎるとの意見もあるので検討する。

(2) 専門演習、卒業論文指導

レベルの高い卒業論文を書かせるために、3年次からの指導が必要である。特に文献講読により知識を深め、またフィールドワークを行い、4年次の卒業研究につなげることが重要である。3年次に先行研究論文の分析などを行っているゼミも見られるようになった。

卒論指導においてもある程度教員間で最低限の作法(卒論の組み立て、引用箇所の明示等)を共有する必要がある(2020年度の卒論においては大きな問題はなかった)。アンケート調査による研究が多すぎるのではないかと意見もあるので2021年度には検討する。

また、観光専攻では、2017年度から卒論を書くにあたってフィールドワークを行うことを義務化している。

3. アクションプランへの自己評価

(1) 2020年度実施内容と評価

- ・指針2(1)各専攻によるグローバル・キャンパスが単位化されたことからさらに海外体験者増を目指したが、今年度はコロナ禍により、英語国際キャリア専攻生以外はゼロとなった。

(評価：△)

(2) 2021年度実施予定項目

- ・指針2(1)海外に渡航することができないため、代替する方法としてオンラインでの交流の可能性を探る。

5-2. 環境デザイン専攻

1. 実績・現状

(1) SDGsに関する取り組み

1) 取り組みの必要性

SDGs (Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標)は2015年に国連で採択された2030年までの国際目標で、貧困や飢餓といった開発途上国に寄った課題だけでなく、気候変動、技術革新、働きがいという先進国の課題も内含する広範囲な目標である。政府、自治体、企業、市民、学校といった様々なアクターが、共通する17の目標に向かった活動を開始している。本学でも、現代社会学部の環境デザイン専攻における環境的視点のSDGs教育は言うまでもなく、経営・観光の視点から企業SDGsの理解教育が必要である。そのためには教職員自身もSDGs理解を進める必要があり、今や全学的に取り組むべき課題となっている。

2) 学部及び環境デザイン専攻での取り組み

2020年度に立ちあげた推進チーム(現代社会学部長を推進リーダーとし、現代社会学部から2名、子ども育成学部から2名の教員を推進役とする)によって活動推進を行う予定であった。しかしながら新型コロナウイルス感染急拡大により、大学の教育・運営業務のリモート化と

オンライン化が急務となり、新しい仕組みづくりを優先して行うこととなった。これによって計画されていた SDGs 推進活動の多くが未実施となった。

2020 年には、SDGs に関する項目について対話をうみだすことができる新たなバージョンのカルタ「SDGs なぞなぞカルタ（写真参照）」を開発し、印刷業者に委託して 5 セット作成した。読み札の文章問題についてそれに関わる絵札を選び取り、その内容についてクイズのように答えながら、対話を行うことができるというカルタである。2020 年はコロナの影響があり、実践する機会をつくることができなかったが 2021 年には大学祭や、制作者の佐部利ゼミに関わる子ども活動の実践の機会などで積極的に行おうと考えている。

3) 付属高校と連携した活動の推進：実績なし

4) 県内小学校と連携した SDGs 活動の推進

富山市立山室中部小学校において、2018 年に現代社会学部と子ども育成学部の学生が作成した SDGs カルタの実践活動を行い SDGs に関する理解を深めた。

5) 自治体・行政と連動・連携した事業実施

2020 年度に引き続き、富山市 SDGs 未来都市戦略会議副会長として上坂教授が富山市の SDGs 活動への評価・提言を行った。また富山市 SDGs モデル事業の一環として「呉羽梨剪定枝等のバイオマス利用実証業務」を、北酸株式会社と連携して実施した。

6) 県内地域、および団体と協力した活動推進

県内で SDGs 活動を推進する団体（PEC とやま）と連携した県民に向けた SDGs 普及活動、ならびに会の代表理事として維持運営絵に参加した。また PEC とやまでは 2020 年 12 月に日本環境教育学会中部支部と連携して、同中部支部大会を開催した（大会委員長：上坂）。コロナ禍であったことから、支部大会を全面オンライン化した「積極的オンライン開催」を掲げ、新たな学会の形を模索した。その結果、学会で通常実施される以下のセッションについて、完全オンラインでの開催の方式やノウハウが蓄積された。

（2）地域の人々との協働作業

1) ワインバーのあるゲストハウスで地域活性化

南砺市福光町西太美地区の才川七において、休耕地を活用して山ぶどうを栽培し、それを利用してワイン製造を行い、販路を構築するといういわゆる地域農産物の 6 次産業化の推進を行うものである。また、山ぶどうワイン以外にも、休耕地を有効利用した無農薬米、トマト、ヤギのチーズの 6 次産業化も視野に入れている。具体的な販路の構築として、地域に残る空家を有効利用して、ワインが楽しめて、地域で製造された農産物を用いた食材が提供できるゲストハウスを開業し、地域労働集約による特色あるゲストハウス運営のビジネスモデルを構築するプロジェクトである。

将来地域で活躍することが期待される大学生が協働で、地域の活性化のために活動する。この活動の内容は学生の卒業研究や研究成果報告のような情報公開の場で、広く公表され、同じような問題を抱える地域の活動の一助になっていくことを狙っている。

2) 「サステナブルなまち珠泉」にするための企業とのコラボレーション

高度成長期、地域によってはそのあとにおいても、開発行為が行われ、数百戸規模の分譲地が日本の各地に存在する。それらの分譲地は事業計画上、ほぼ同時期に開発され、短い販売期間で住まい手に分譲される。販売のターゲットは一次取得者であり、40 歳前後の子育て世代である。このように分譲されたまちが 20 年、30 年経過すると、住まい手は同世代が多いため、同時に子育てが終わり高齢化も進行する。広い住宅に単身で住む、転居し長い間空家となってしまうなどの状況に至る。このような開発地の多くは、分譲当初のまちとしての活気や魅力が失われていくという共通の問題を抱えている。

そのようなまちの 1 つである「富山市珠泉」を取り上げ、現状の住民意識、まちの状況、

今後の状況予測を行い、まちが抱える問題点を整理する。「富山市珠泉」は20年ほど前に分譲された富山国際大学とも近い分譲住宅であり、分譲当初制定された建築協定は、2021年に失効することが決まっている。この建築協定は、開発当時持っていたこのまちの景観に関するポテンシャルを維持する一助となってきた。建築協定に代わるものを上手く作ることも、この研究を進めていく上でのサブテーマである。2020年度においては、珠泉を20年前に開発した企業とコラボレーションしてこの取り組みを進めた。

(3) 環境デザイン実習

2019年度に引き続き2020年度においても、実習テーマを①森林資源調査法、②海洋環境調査法、③住宅環境調査法の3点に絞り、全員が全ての分野を実施することとした。COVID-19の影響で、予定していた前期のスケジュールでは実施することができず、オンラインでできることはオンラインで実施しつつ、フィールドワークなどは夏休み期間を利用して実施した。臨海実習はオブションコースの位置づけで計画したが、COVID-19の影響で実施できず、代替実習として講義と演習に変えて実施した。以下に概要を示す。

1) テーマごとの調査内容

テーマ1：水環境調査

富山市内の環境水について、pH、電気電導度、水温、全硬度などを測定することによって水質調査についての基本的な考え方を学ぶとともに、得られたデータをまとめ、考察することについて学んだ。海洋のマイクロプラスチックなどの指標を砂浜においてサンプリング計測し、ここから読み取れる事実をもとに社会との関連性を調査して考察する。

テーマ2：身近な森林資源・植物資源調査

近隣の森林においてプロット調査による森林の過密度評価と身近な地域の植生調査を行い森林・植物資源について理解を深める。

テーマ3：CASBEEを用いた家屋の環境評価

CASBEEの基準にしたがって各自が自宅の環境性能を評価し、グループごとにデータを検討して住環境指標に与える住宅性能の貢献度をみちびく。

2) 臨海実習に替わる講義と実習（学生は37名出席）

講義：臨海に生息する生物（原生動物、海綿動物、刺胞動物、中生動物、扁形動物、内肛動物、環形動物、軟体動物、節足動物、毛顎動物、棘皮動物、脊索動物）

講師：金沢大学環日本海域環境研究センター 鈴木信雄教授

実習：イカの解剖

日時 2020年7月10日（火）13:00～16:10 301教室、厚生棟

(4) 専門演習Ⅰと専門演習Ⅱ（卒業研究）

専門演習Ⅰ、Ⅱともに環境デザイン専攻の教員6名全員で学生を担当した。

(5) 専門演習Ⅱ（卒業研究）の状況（次頁のTable参照）

環境デザイン実習と同様に卒業研究も「地域志向科目」としての性格を強調した内容とした。結果、全41件の卒研テーマ中26件（63.4%）が地域課題解決型の卒業研究となった（昨年度は44.7%）。また中間発表を8月と12月の2回とした。これは卒業研究発表会での指導ではなく、十分に事前に研究指導することを目的として行った。このことにより、卒業研究発表会は、3年生との意見交換の場となり、発表会が活性化された。また、9月卒業生の中間発表や卒業研究発表は、時期をずらして、3月卒業生と同時に行うようにしている。人数の少ない9月卒業生も、多くの聴衆の前での発表になり、よい経験がつかめると考えている。

・第1回中間発表会（2020年08月06日（火）13:00～17:00実施）

- ・第2回中間発表会（2020年11月27日（金）13:00～17:00 実施）
- ・卒論発表会（2021年02月04日（木）9:30～15:00 実施）

Table 環境デザイン専攻卒業研究タイトル

No	タイトル
1	中国鞍山市の水汚染に関する調査研究
2	祭礼・伝統行事継承の在り方～未来に残したい「祭」とは～
3	動物との共生について～環境倫理学の視点から～
4	SVODと映画館は共存可能か？
5	タバコのポイ捨てに対する傾向と対策
6	不眠症の克服法～森田療法を中心に～
7	地域の伝統文化を継承していくための課題～射水町獅子舞保存会を中心に～
8	スポーツ大会における環境負荷の低減～マラソン大会を中心に～
9	神経症の「治癒」概念について～生活の発見会への聞き取りを中心に～
10	梨剪定枝のバイオマス燃料としての乾燥方法～発酵熱による乾燥方法の最適化～
11	高濃度CO2栽培のための高性能な白色腐朽菌の探索
12	小水力発電建設のコスト分析とユニット化によるコストダウン
13	スマートハウス農業に向けたリモート灌漑制御への取り組み
14	A Reserch on the Possibility of Small Scale Hydro Power Generation in BESSO River of TOYAMA City
15	キノコ栽培を利用した高濃度CO2栽培農法の可能性
16	氷見市における電気軽トラック導入の可能性に関する研究
17	南砺市における電気軽トラック導入の可能性に関する研究
18	太陽光発電パネルの産業としての有効性評価
19	高濃度CO2栽培のための持続的バイオマス発酵手法の開発～地中熱を利用したバイオマス発酵の可能性～
20	富山市珠泉のくらしに関する住民意識調査～珠泉地区をサステナブルなまちにするために～
21	富山市珠泉の現況調査と住民との対話～珠泉地区をサステナブルなまちにするために～
22	新陳代謝のあるまちにするための手法の検討～富山市珠泉地区をサステナブルなまちにするために～
23	地域の人々と進める空家リノベーション～ワインバーのあるゲストハウスで地域活性化～
24	地域の食材を活かしたワインバーの提案～ワインバーのあるゲストハウスで地域活性化～
25	古民家リノベーションにおける照明計画の提案～ワインバーのあるゲストハウスで地域活性化～
26	人が楽しく集まる家づくりに関する研究～「第25回北陸の家づくり」設計コンペ作品の分析～
27	避難所運営ゲーム(HUG)の有用性に関する研究
28	インテリア企業の成長戦略と環境問題への取り組み～ニトリとIKEAを事例として～
29	富山湾における外国起源の漂着ごみ
30	現代に活かす里山の知恵
31	フィンランドに学ぶ日本の理想の働き方
32	富山湾における漁具関係の漂着ゴミ
33	植物から採取した抗菌作用について
34	レジ袋有料化に対する日韓意識の違い
35	氷見市民の環境意識と行動について
36	大学生の生活空間における空中落下真菌
37	黒部市と上市町の環境水中のマンガン濃度
38	熊野川といたち川におけるほう素化合物濃度
39	ベンゼン、トルエン及びキシレンの大気中の分布予測と経年変化
40	大学講義室内における換気指標としての二酸化炭素濃度調査
41	東黒牧キャンパスにおける野生動物の生態調査

（6）その他

1）ゼミ教員による学生指導

エコ検定合格をめざし、専任教員を中心に受験講座を実施した。直近の状況を下記に示す。2020年度においては、受験者数も増加し、合格率も改善した。

2020年度 受験者数：35名、合格者数：21名、合格率：60.0%

2019年度 受験者数：30名、合格者数：16名、合格率：53.3%

2018年度 受験者数：32名、合格者数：15名、合格率：46.9%

2017年度 受験者数：31名、合格者数：20名、合格率：64.5%

2) グローバル化対応（グローバルキャンパスプログラムへの参加）

デンマーク研修、イギリス建築史研修ともに、COVID - 19 の影響で実施できなかった。

2. 今後の課題

（1）本学における SDGs 活動を担う中心主体として

2020 年度に予定していた活動の多くが、新型コロナの影響で未実施に終わったことをはじめ、全体として組織的な活動に結びつけるには至らなかった。その一方で新型コロナウイルスの影響による社会変革の見通しがかなり良くなったことから、Post Corona/With Corona 時代に相応しい学び方・働き方を SDGs のフレームワークで整理しなおす視点の必要性が浮き彫りとなってきた。2021 年度は新たな「大学 SDGs」の創出を目指し、大学として組織的な活動へとステップアップすることが望まれる。

（2）学部の方角性の中で「環境デザイン専攻」のあり方

現代社会学部では、2018 年度に英語国際キャリア専攻を発足させ、IT 関連の教育課程を強化したカリキュラムにより、IT に精通した人材育成の強化にシフトを切った。その中で今後の「環境デザイン」のあり方は転換点に来ている。国際教育、IT 教育を踏まえながら、地域社会のニーズに答えられる教育が提供できるように少しずつ変化をしていくことが必要である。

3. アクションプランへの自己評価

（1）2020 年度実施内容と評価

・指針 2(1) 各専攻によるグローバル・キャンパスが単位化されたことからさらに海外体験者増を目指したが、今年度はコロナ禍により、英語国際キャリア専攻生以外はゼロとなった。

環境デザイン専攻ではアメリカ・カナダ方面に研修予定だったが、今年度はコロナ禍により実施できなかった。（評価：△）

（2）2021 年度実施予定項目

・指針 2(1) 海外に渡航することができないため、代替する方法としてオンラインでの交流の可能性を探る。

5-3. 経営情報専攻

1. 実績・現状

（1）「経営情報概論」（1 年次専攻必修）

本講義は経営分野（経営環境、経営戦略、会計等）、情報分野（データサイエンス・情報システム等）の各論にとどまらず、外部ゲストの講義を招き、実際の経済環境、社会環境の変化と経営の関係に関する講義も行っている。今年度は以下の講師を招聘した。

富山商工会議所会頭 高木 繁雄氏「グローバル化の中の日本経済展望」

日本銀行富山事務所長 小川 万里絵氏「金融経済における日本銀行の役割」

日本経済新聞販売局マーケット開発部 山野 茂樹氏「日本経済新聞の読み方～『ビジネスの視点』を持つ～」

（2）「経営情報実習」（3 年次専攻必修）

本講義は経営情報に関する専門知識を実践的に身に付けること、課題解決力、コミュニケーション力、チームワーク力を醸成することを目的としている。今年度から新たに情報系のプログラムが加わり、その成果は 1 月 21 日(木)の成果発表会（Zoom によるオンライン開催）で報

告された。実習のテーマは以下のとおりである。

[経営系プログラム]

経営系は 21 名の学生が 4 グループに分かれ「一般社団法人 地域・観光マネジメント」の指導のもと、コロナ禍でのビジネス・モデルの在り方等につき検討を重ね、下記のテーマの企画を発表した。

①古地図観光ツアー

②古地図散歩 ～0.5%を探す旅

③ずらし旅 ～コロナ禍における新しいツアー・モデル～

④地元の魅力再発見！～コロナ禍における新しいツアー・モデルから

[情報系プログラム]

情報系は 22 名の学生が 11 グループに分かれ、それぞれ小型コンピュータ Raspberry Pi (ラズベリーパイ) を活用した音声翻訳機の実現を目標に実習を行い、発表は 4 グループに再編成して行った。

(3) 専門演習

専門演習Ⅰは 6 名、専門演習Ⅱは 5 名の教員が担当し、24 名が卒業論文を提出し学位（社会学士）を取得した。

(4) 卒業研究

研究過程で 2 回の中間発表を行った後、卒業研究発表会を 2021 年 2 月に実施した。卒業研究のタイトルは以下のとおりである。

中国における中小企業発展戦略管理に関する研究

コロナ禍におけるマスクの転売問題

富山県の政党基盤について

顔認識 AI の現状と今後

e スポーツの普及における課題と今後の展望

新型コロナウイルスに関するツイート解析

アリババの発展と社会への影響に関する研究

スポーツ界において不祥事が起きる組織的要因 ～ドーピングの事例をもとに～

富富富のマーケティングについて

日本における充電ステーションの普及について

マーケティングの視点から再考する売れる商品の要素

インターネット銀行の発展が地方銀行に与える影響について

常願寺川の治水事業の課題と展望

学校教育におけるデジタル・トランスフォーメーションについて

コンビニの経営戦略に関する研究ー商品管理システムを中心に

富山と金沢の若者のファッション動向の比較研究

富山県におけるコミュニティ防災の重要性

流行の定着と消滅における要因分析

J リーグの経営分析～赤字チームの存在とコロナの影響～

キャッシュレス決済の現状と展望

動植物の識別実験

サブスクリプション市場拡大による音楽消費の変化と影響

富山県のパチンコ業界のコロナウイルスの影響と今後

日本におけるバスケットボール普及の現状と展望

2. 今後の課題

短期的な課題として、専攻所属学生増加への対応や、マーケティング分野の強化を挙げることができる。2021年度の専攻所属の3年次生は71名となる見込みであり、専門演習Ⅰのゼミあたり学生数は11～12名となる。これまでどおりきめ細やかな指導を継続するためには、教員間の情報共有の徹底やサポート体制を強化する必要がある。また、大人数の実習を実施するにあたり、新たな連携企業等の開拓等、実習のプログラムも見直す必要がある。経営の主要分野であるマーケティングについては、専任教員の異動にともない2020年度はマーケティング分野の専門演習が開講されなかったが、2021年度は新任教員が着任し、同分野が強化される。

長期的な課題としては、急速な社会の変化の中でも陳腐化しない普遍的なスキルと、Society 5.0時代の新たなリテラシーへの対応を進める必要がある。既に2020年度にカリキュラムの見直しを行っているが、今後も情報系科目の強化や、経営系の科目との連携などについては継続的に検討することが求められる。

3. アクションプランへの自己評価

(1) 2020年度実施内容と評価

- ・指針2(1) 各専攻によるグローバル・キャンパスが単位化されたことからさらに海外体験者増を目指したが、今年度はコロナ禍により、英語国際キャリア専攻生以外はゼロとなった。

(評価：△)

(2) 2021年度実施予定項目

- ・指針2(1) 海外に渡航することができないため、代替する方法としてオンラインでの交流の可能性を探る。

5-4. 英語国際キャリア専攻

1. 実績・現状

(1) 英語国際キャリア専攻の専攻科目（講義）

2020年度は、専攻第1期生である3年生（2018年度入学の8名、うち1名は休学中）と2期生9名に加え、3期生となる1年生13名を新たに迎えた。このうち新型コロナウイルス感染拡大により海外留学ができなくなった2年次生9名が、留学の代わりに協定校の授業をオンライン受講して国内にとどまったため、従来配当年次を3年次としていた2科目（Academic Writing IIと英語文学）を2年次でも履修可能とした。開講した専門科目は以下のとおり。

なお、専攻科目は専任教員4名（後期は同5名）と非常勤講師1名が担当した。（かつこ内の数字は単位数、*印は配当年次を変更した科目）

< 1年生対象 >

専攻必修 Intensive English I (4) Intensive English II (4)

選択科目 Creative Writing (2)

< 2年生対象 >

専攻必修 Academic Writing I、Academic Writing II*、Advanced Reading I、

国際キャリア概論、多文化共生論（いずれも2）

グローバルスタディーズⅠ～Ⅴ（各4）

選択科目 国際ジャーナル、英語文学*、TOEIC III（いずれも2）

< 3 年生対象 >

専攻必修 国際キャリア特別講義、Academic Writing II、専門演習 I a, b (いずれも 2)

選択科目 英語文学、Advanced Reading II、ビジネス英語、Presentation and Debate、TOEIC IV、国際ビジネス、国際協力、国際交渉 (いずれも 2)、

< 4 年生対象 >

専攻必修 専門演習 II (12)

最初に述べたように、留学が進級要件となる 2 年次生は、2020 年度はコロナ禍で海外留学ができず、やむなく協定校のミズーリ州立大学のオンライン授業を 10 月～1 月の 4 か月間受講した。その際、同大学が日本語を学ぶ学生を一人ずつ、本学の学生の語学学習パートナーとしてつけてくれ、互いの語学学習に役立てるとともに異文化交流を深めた。

また、新型コロナ感染に終息の見通しが立たない状況を踏まえ、感染終息後に留学する機会を選択肢として与える意味から、留学などの履修条件を緩和することになった。すなわち 2021 年度留学予定の 2020 年度入学生に限り、長期留学を 2 年次から 3 年次への進級要件からはずすこととした。同時に、先に配当年次を変更していた 2 科目 (Academic Writing II と英語文学) に加え、4 科目 (Advanced Reading II、国際ビジネス、ビジネス英語、Presentation and Debate) も、2021 年度以降は 2 年次でも履修できる科目 (2・3 年次履修科目) に変更することとした。なお、長期留学を進級要件から除外するのは 2021 年度限りの措置だが、一連の配当年次変更は新型コロナ感染による一時的な対応でなく、科目履修に柔軟性を与えるものとして、2021 年度以降も有効なものとした。

さらに、2 年次進級の際に他専攻に変更する学生が続いたため、原因を検討し、その結果、専攻の決定は他専攻同様、入学後に時間をかけてじっくり検討してもらうべきとの結論に達した。そこで 2021 年度からは、入学当初に当専攻に決定させることをせず、他専攻同様 1 年次の終わりのころに専攻を決定してもらうこととした。

(2) 専攻科目以外の英語関連科目

英語学、英語音声学、ならびに TOEIC I、II (いずれも 2 単位) の科目は、英語国際キャリア専攻の学生の大半が履修し、英語能力の向上に役立てた。

なお、国際交流センターが年 2 回実施している TOEIC IP テストは、コロナ禍で前期は実施を見送り、後期の 12 月 1 回のみの実施となったが、2019 年度にグローバルスタディーズで長期留学を果たした 3 年生が留学後初めて受験し、受験前に比して大幅に得点を伸ばした。

(3) 専門演習 I と II

専門演習 I は専攻の教員 3 名、専門演習 II は専攻の教員 1 名が担当した。

< 成果 >

専攻として初めて海外留学に出した 2018 年度入学生のグローバルスタディーズ (長期留学) の成果は大きく、TOEIC IP テストの結果に明確に示された。特に、留学前のスコアが低かった学生ほど得点の伸びが顕著だった。

学生 (性別)	留学前の得点	留学後の得点	得点の伸び
A (女)	540	755	+215
B (女)	345	580	+235
C (男)	530	585	+55
D (女)	410	740	+330

E (男)	400	660	+260
F (男)	610	630	+20

2. 課題

2021 年度より、専攻の決定を、他専攻と同じく 1 年次の終わりごろとすることになった。専攻希望者にはこの間に留学への意志を固めてもらい、経済的な準備を行い、英語での卒業論文執筆について自覚を養うよう指導すること、同時に教員の側でも魅力ある学びを提供できることを示さなければならない。

なお、2020 年度に海外留学できず、協定校のオンライン授業を履修した 2019 年度入学生に関しては、このいわゆる「オンライン留学」とは実施時期が離れた短期の留学であっても、既に履修した 4 か月のオンライン留学と併せて、長期留学とみなすことが教授会などで了承された。新型コロナが終息した折は、当該学年の学生に海外留学の意志があれば、積極的に支援する必要がある。また、2020 年度入学生についても、2 年次秋（2021 年秋）からの留学は難しい情勢であり、留学の時期や留学先についてきめこまかな指導が必要である。

一方、2018 年度入学の第 1 期生の留学に関しては、英語だけでなく、海外で生活することにより得られる自信は大きく、留学から帰国した学生たちの人間としての成長には目を見張るものがあった。だが同時に、成長期の微妙なバランスの上に立つ心身には、初めて保護者から離れての異文化での生活からは相当の負荷がかかることも事実である。留学中だけでなく、帰国後の心身のケアに、時として専門的な立場からの支援が必要な場合もある。

3. アクションプランへの自己点検

(1) 2020 年度実施内容と評価

- ① 指針 2(1) 英語国際キャリアの学生は、新型コロナウイルス感染症の影響により留学はすべて中止となったが、9 名の学生がアメリカのミズーリ州立大学へ 4 カ月間のオンライン留学を実施した。(評価：○)
- ② 指針 2(3) 2019 年度から 2020 年度にかけての新型コロナ感染拡大初期に、欧州や北米での留学から帰国した学生らに帰国時の状況について聞き取りを行った。1.帰国の決断がもう少し早めるべきだった 2.保護者と早い時期から連絡を取る必要性があった、などの反省がある。(評価：△)

(2) 2021 年度実施予定項目

- ① 指針 2(1) 新型コロナ収束まで、当面は本学からの留学は「オンライン留学」とせざるをえない。
- ② 指針 2(3) パンデミック時の、本学からの派遣留学生との連絡方法や、協定校の学生受け入れに関するノウハウを蓄積し、問題点を洗い出す。

6. 情報教育

1. 実績・現状

(1) 教養科目における情報教育

必修科目として、文書作成ソフト（Word と PowerPoint）を習得することを目的とした「ビジネス情報演習 I」、データ管理・分析に不可欠な表計算ソフト（Excel）を習得することを目的とした「ビジネス情報演習 II」、現代社会を支える基盤となっている情報技術の基礎概念を学ぶ「情報科学概論」を開講している。

Word/PowerPoint/Excel は大学生活・社会人生活において必須の道具となっており、学生もそのことを十分に理解しているため熱意をもって受講している。インターネット・マルチメディア・人工知能（AI）・ブロックチェーンなど最新の情報技術への学生の関心も高い。教員もそれに応える授業を実施しており、授業アンケートの「総合評価」は、4.21～4.41 という高い値を得ている。

(2) 学部共通科目における情報教育

選択科目として、「情報統計学 I」、「情報統計学 II」、「人工知能とその活用」、「プログラミング基礎」を開講している。

「プログラミング基礎」の受講は 55 人（学部定員の 45.8%）に達しており、学生の関心の高さを示している。「情報統計学 II」の受講 14 人はやや少ないが、「統計学」という言葉に苦手意識を感じている学生が多いのではないかと推察される。次年度からの新カリキュラムでは「データサイエンス基礎 II」と名称変更され、最新の話題も取り込むことで受講人数が増加することが期待される。なお、各科目の授業アンケートの「総合評価」は、4.00～4.25 という高い値を得ている。

(3) 経営情報専攻科目における情報教育

専攻必修科目として「情報システム論」、選択科目として「e マネジメント論」、「情報メディア論」、「情報ネットワーク論」、「情報技術論」、「情報社会と情報倫理」、「データサイエンス実践演習 I」を開講している。

「情報社会と情報倫理」の受講は 106 人（学部定員の 88.3%）に達しており、情報化の進展に伴う各種の社会的課題を多くの学生が認識していることを示している。「情報システム論」・「e マネジメント論」・「情報技術論」の 3 科目を受講することで国家資格「IT パスポート」試験の準備ができるため、同資格を取得する学生の数も増えている。各科目の授業アンケートの「総合評価」は、3.50～4.25 となっている。

(4) 開学 30 周年記念シンポジウム

開学 30 周年記念シンポジウム「デジタルトランスフォーメーション(DX)時代における人材育成」を 10 月 31 日（土）に開催した。新型コロナウイルスのリスクを考慮し、リアル会場とオンライン会場の同時開催とし、リアル会場には富山国際会議場を、オンライン会場には YouTube を利用した。リアル会場に 68 名、オンライン会場に 55 名、合計 123 名の参加があった。その内訳は、高校生、大学生、社会人、会社経営者など多岐に富んでいた。オンライン会場には、富山県内だけでなく、石川県、東京都、神奈川県、山梨県からも参加者があった。

株式会社エクスマーシオン フェローで大阪大学招聘准教授の中川郁夫氏が基調講演「デジタル時代に直面する変化と求められる人材像」を行い、その後、本学学長を交えた鼎談を行った。

実施後のアンケートでは、「デジタル化の本質を知ることができた」、「これからのデジタル時

代で求められる人材のイメージが良くわかった」、「脳をガツンとやられるような刺激を受けた」などの記述があり、高評価を得ることができた。

(5) 社会人の学び直しのための「リカレント講座」

「科学技術が広げる未来社会（Society 5.0）に向けた知識武装」というタイトルのもとで、2月に以下の3回の講座を実施した。交通の便が良い大学コンソーシアム富山の「駅前キャンパス」研修室を会場とし、水曜日の18:30～20:00開催とすることで社会人が参加しやすい形とした。

- ・第1回(2/10)「人工知能(AI)、データサイエンスの動向とその理解に必要な基礎知識」
- ・第2回(2/17)「デジタルトランスフォーメーションの動向とその推進のために必要な基礎知識」
- ・第3回(2/24)「バイオテクノロジーの動向とその理解のための基礎知識」

参加者は7人とやや少ない人数であったが、受講後のアンケートでは「とても理解できた」と「理解できた」の合計が85%を超え、好評であった。

(6) 次年度に向けた準備

1) 数理・データサイエンス・AIリテラシー教育プログラム

内閣府・文部科学省・経済産業省の3府省が推進する政策に対応した「数理・データサイエンス・AIリテラシー教育プログラム」の準備を行った。全学の方針として、学生の数理・データサイエンス・AIへの関心を高め、かつ、数理・データサイエンス・AIを適切に理解し、それを活用する基礎的な能力を育成することを目的としたプログラムを次年度から開始することを決定した。

2) 情報スペシャリスト養成プログラム

情報教育をさらに強化することを目的として次年度から開始する「情報スペシャリスト養成プログラム」のカリキュラム検討を行った。国家資格「ITパスポート」の上位資格である「情報セキュリティマネジメント」と「基本情報技術者」の取得を目指して、新たに「情報セキュリティマネジメント」、「情報システム開発技術」、「デジタルトランスフォーメーション特別講義」の3科目を新設することを決定した。

2. 今後の課題

＜デジタルトランスフォーメーション（DX）を推進できる人材の育成＞

現在は、新型コロナウイルスの存在を前提とした社会や経済のあり方を考えざるを得ない状況となっている。オンライン授業やテレワークの取り組みにみられるように、コロナ禍の中で鍵となっているのはデジタル技術である。もともと数年前からAIやIoT等の新技術による変革が唱えられてきたが、新型コロナウイルスは、デジタル技術による変革（デジタルトランスフォーメーション[DX]）を一層加速させるものと予想される。

こうした中で、本学が行うべきことは、デジタルトランスフォーメーション（DX）を推進できる人材を育成することである。世界の動向を踏まえた上で地域の社会や企業の課題に向き合い、その解決を担う人材を育成しなければならない。

次年度から開始する「数理・データサイエンス・AIリテラシー教育プログラム」と「情報スペシャリスト養成プログラム」はその方向性に沿ったものである。学生の関心を高め、自ら学ぶ姿勢を育んでいく必要がある。

3. アクションプランへの自己点検

(1) 2020年度実施内容と評価

- ・「指針2(6)情報通信技術(ICT)や人工知能(AI)の急速な進展に対応し、情報処理・活用能力を伸ばす教育を推進する」については、上述の通り十分な対応ができた。(評価：◎)

- ・「指針 2 (7) ICT を利活用した教育を推進するための学内情報ネットワーク基盤を再整備し、学生サービスの質向上を実現する」については、前期において新型コロナウイルス感染拡大の中でオンライン授業への迅速な移行が行われたほか、情報センターによる外部接続ネットワーク増速(100Mbps→1Gbps)が行われた。(評価： ◎)
- ・「指針 4 (1)社会や地域のニーズに対応する改革・改善を促進し、地域での存在感を高める活動を強化して、富山国際大学ブランディングを明確にする」については、「開学 30 周年記念シンポジウム」と「リカレント講座」により、十分な対応ができた。(評価： ◎)

(2) 2021 年度実施予定項目

- ・「指針 2 (7) ICT を利活用した教育を推進するための学内情報ネットワーク基盤を再整備し、学生サービスの質向上を実現する」については、学園情報教育研究センターにより外部接続ネットワーク再増速(1Gbps→10Gbps)が行われる予定である。また、教職員の情報共有システムとして Google Workspace の利用を推進する予定である。
- ・「指針 4 (1)社会や地域のニーズに対応する改革・改善を促進し、地域での存在感を高める活動を強化して、富山国際大学ブランディングを明確にする」については、2021 年度においても情報シンポジウムを開催し、本学の取り組みをアピールする予定である。

7. 留学生教育

1. 留学生の現状

	国籍	2020 年度（前期）				国籍	2020 年度（後期）			
正規生	中国	韓国	ネパール	ベトナム	合計	中国	韓国	ネパール	ベトナム	合計
人数	16	2	2	3	23	15	2	2	3	22
非正規生	中国	韓国	フランス	ベトナム	合計	中国	韓国	ネパール	ベトナム	合計
人数	6	1	1		8	1			1	2

※非正規のうち（ ）内は研究生

学年別留学生

正規生人数	2020（前期）	2020（後期）
1 年生	0	0
2 年生	2	2
3 年生	9（3）	9（3）
4 年生	12（4）	11（4）
合計	23	22

※（ ）は編入 2+2 の学生

奨学金受給状況：

奨学金名	金額（月額）	受給人数	
		前期	後期
富山国際大学奨学金	2 万円 ※1	10	9
	4 万円 ※2	2	2
富山県国際交流奨学金	5 万円 ※3	3	3
	1 万円 ※4	1	1
J a s s o 学習奨励費	4 万 8 千円	1	1
朝日国際教育財団	3 万 5 千円	4	4
朝日国際教育財団・特別奨学生	10 万円	1	1

※1 富山国際大学奨学金（2 万円）は協定校からの入学者のみに支給（対象外は前後期共 8 名）

※2 “ ” （4 万円）は聖公会大学からの交換留学生のみに支給

※3 富山県国際交流奨学金（5 万円）受給者のうち 1 名は協定校外の学生

※4 富山県国際交流奨学金（1 万円）は協定校外からの 1 年生に優先的に割り当てている。

宿舍別入居状況：

大学が民間アパートを借り上げ、前期 21 室、後期 7 室を留学生に提供している。そのほかに近くのアパート及び富山市内の民間アパートを利用している。

実績と課題

在籍している前期 23 名、後期 22 名の留学生は、海外 5 カ国の協定校と日本国内にある日本語学校から進学してきた学生である。近年、本学の海外協定校の数が増えることにより、受け入れた留学生数も年々増えてきた。けれども新型コロナウイルスの感染拡大の状況で、留学生募集事業においては大きなマイナスの影響を受けた。2020 年度は新規の正規留学生と交換留学生の募集数はゼロという状態に置かれた。

今までは、大学は近くにある民間アパートを棟ごと借り上げて留学生に宿泊の便宜を提供してきたが、2020 年度は新規入学する留学生がいなかったため、部屋の空きが多くなった。アパートを利用すれば、通学の利便性、留学生同士の交流や友人関係づくりにプラスになっている。生活上の困難があっても、すぐそばに友達がいてお互いに助け合えるから、留学生の大多数は、概ね安心、且つ充実した留学生活が送れている。その点においては、留学生派遣側からも評価を得ている。

ここ数年来、正規留学生の質がよくなり、日本語レベルも高まりつつあるのは、喜ばしいことであった。2020 年度、卒業した留学生のうち 6 名が日本で就職、5 名が帰国、1 名が進学することになった。

2020 年度、卒業した留学生の中の 5 名が日本語能力検定の 1 級、5 名が 2 級に合格したことから見ると、今後さらなるきめ細かな指導と温かい支援をし続ける必要がある。留学生それぞれの勉強意欲と日本語のレベルには相変わらず大きな差があるのを認識している。これらを踏まえて、今後もいろいろな面での厳しく、かつ多様な指導が求められる。

2. 日本語教育の現状

留学生に早く日本での生活に慣れてもらい、大学での専門的な勉強についていけるように、そして将来国際社会に有用な人材になってもらうために、留学生に対する日本語の教育に力を入れてきた。1 年次入学時にプレメントテストの成績によりクラス分けをして日本語の教育を行う計画を立てていた。しかしコロナ禍の状態で、残念ながら新規入学の留学生数がゼロだったため、2020 年度は全部の計画の実施ができなかった。残っていた留学生だけに日本語の一部分の授業が行われた。(上級日本語、日本語総合演習)

1) 通常の日本語クラス

留学生を対象にした日本語のクラス

基礎日本語 I・II (週 2 回)

中級日本語 I・II (週 1 回)

実践日本語 I・II (週 2 回)

上級日本語 I・II (週 1 回)

日本語総合演習 I・II (週 1 回)

日本語補習 (前期週 2 回、後期週 4 回、交換教員担当の 2 回)

そのほかに、来日する留学生の日本語のレベルの差が大きく、特に非漢字圏から来た留学生が、全体の日本語の授業についていけるように日本語の補習授業を週に 4 コマ増やした。

2) 通常の日本語補習の授業以外に、留学生支援員と専任教員により日本語や生活、卒業後の進路などの指導が随時行われた。

実績と課題

新カリキュラムのシステム導入後、卒業までに日本語能力検定試験 1 級を取らないと卒業ができないという意識が留学生の中で少しずつ浸透するようになった。各自が日本語の習熟度によって、自主的に検定試験を受けるようになった。2020 年 12 月までのテスト成績の状況は次のとおり。

日本語能力検定試験各学年の合格者数：

2020（前期）				2020（後期）		
学年	在籍数	N1 人数	N2 人数	在籍数	N1 人数	N2 人数
1 年	0	0	0	0	0	0
2 年	2	0	0	2	0	0
3 年	9	1	6	9	1	6
4 年	12	5	3	11	5	5

卒業するまでに日本語能力検定試験の1級に合格するという目標の達成率は、決して高くはないが、例年より少し高くなりつつある状態である。今後いかに留学生の日本語のレベルを高めていくかが課題であり、そのために専任と非常勤の日本語授業の担当者との緊密な連携、情報交換、授業改善に力を入れることが目下の急務である。

3. 留学の生活指導

毎週の火曜日と木曜日の午後2:30～5:30の時間帯では、留学生を対象とした銭輝支援員による個別指導と支援を行った。2020年度はコロナ感染拡大という未曾有の状態で、心のバランスを崩した留学生、親元から離れてホームシックになった留学生もいた。その分の指導とアドバイス、見守ることは、大変だったけれども乗り越えられた。

他に日本語の勉強、日本の文化、伝統、生活習慣、日本の礼儀作法、困りごとについての相談、遵守すべき規律、守るべきルール等の指導とアドバイスも随時行われた。

授業のほかになるべく日本の地域社会あるいは日本人との触れ合いができるチャンスを与えようと毎年数多くの有意義な活動とイベント、異文化体験などを実施したが、2020年度はコロナの関係でやむを得ず自粛をした。以下の一件だけ実施された。

行 事		期 日	場 所	参加人数 (留学生)
1	富山国際大学留学生総会・懇談会	12月18日(金)	富山国際大学 厚生棟	25

実績と課題

いろいろな行事、交流活動、ボランティア活動への参加により、留学生たちが日本社会、日本人、日本事情を理解することに大いに役立った。2020年はコロナ禍で残念だったが、今後より充実した留学生生活を送ることができるように留学生一人ひとりが日本人と触れ合い、友達を作り、積極的にコミュニケーションが取れるように、また卒業後に日本社会や母国に貢献できる有用な人材になれるように今後も支援を行う。

未曾有の新型コロナウイルスの拡大を防止するために、留学生たちへの生活指導、危機管理、外国人滞在ビザの許可、滞在が延期できるかどうかなど、様々な問題が発生する可能性がある。このような緊急の時期、非常時の留学生管理は大変重要な課題であり、いざという時に迅速かつ正確な対応ができるよう努めなければならない。

4. アクションプランへの自己点検

(1) 2020年度実施内容と評価

- ① 指針 2(4) 新規の入学留学生数 10 名程度を目指したけれども、新型コロナ感染拡大で欧州からの留学生を 1 名受け入れるにとどまった。これは、新型コロナ対策で政府が新規入国を停止する以前に入国済だった学生。(評価：△)
- ② 指針 2(4) 12 名卒業した留学生のうち、日本語能力検定 1 級取得者 5 名、2 級取得者 5 名で、目標の 50%以上の取得とはならなかった。(評価：○)
- ③ 指針 2(4) 12 名卒業の留学生中、大学院進学者 1 名、日本国内就職者 6 名、帰国者 4 名、未定 1 名。(評価：○)
- ④ 指針 2(4) チューター制度の活用による外国人留学生と日本人学生の交流については、新型コロナウイルス感染症の影響により、前期は通学禁止となった時期があり、ZOOM にて実施。前期はチューター 4 人(外国人 1 人・日本人 3 人)。オンライン授業のおかげで、子ども育成学部の学生たちも初めて日本語授業にチューターとして参加することができた。また、カナダの協定校による定期的なオンライン学生間交流に両学部 of 学生 6 名が参加した(2020 年 10 月～12 月)(評価：○)

(2) 2021 年度実施予定項目

- ① 指針 2(4) 正規の留学生募集は、新型コロナ感染拡大の影響で、前期募集は後期に先送りされ、後期には 1～2 名程度を目指す。
- ② 指針 2(4) 留学生は全員卒業まで日本語能力検定試験 1 級の資格を取得できるよう支援策を講じ、全員取得を目指す。
- ③ 指針 2(4) 卒業後に日本国内での大学院進学や日本企業への就職の促進を図る。6 割の達成を目指す。
- ④ 指針 2(4) 外国人留学生と日本人学生の交流事業に学生のアイデアを募り、それを実現することで、制度に関心を向けてもらい、外国人留学生と日本人学生の交流を促進する。

8. 教育改善・FD活動

1. 実績・現状

(1) ホームページや電子掲示板の活用

- ・ゼミ活動、クラブ・サークル活動、ボランティア活動などにおける学生の活動や取り組みの成果を学内外の人々に広く知らせるため、大学ホームページを活用した。
- ・学内においては、図書館等入口と厚生棟内に設置してある大型液晶モニターを電子掲示板として活用した。大学からの連絡や授業の変更情報などのほか、部活動の対外試合の結果など学生の活躍についても情報を共有できるようにした。また、4号館2階ホールに設置した掲示板を用い、新聞などで報道された学生や教員の活動を紹介した。

(2) 優秀卒業論文の表彰

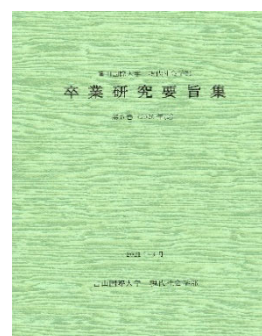
- ・卒業論文の質の向上を図るため、2015年度（平成27年度）より優秀卒業論文を各専攻から2題ずつ選出し、執筆した学生を学位記授与式で表彰している。2020年度（令和2年度）の優秀卒業論文は、以下のとおりである。また、学位記授与式の会場で優秀卒業論文のパネルを展示した。

2020年度優秀卒業論文

	専攻	論文題名
1	観光	博物館の写真撮影解禁とSNSを利用したPRの効果～富山県立山博物館の事例を中心として～
2	観光	世界遺産と観光 ～歴史を学ぶ場としての世界遺産～
3	環境デザイン	祭礼・伝統行事継承の在り方 ～未来に残したい「祭」とは～
4	環境デザイン	地域の人々と進める空家リノベーション～ワインバーのあるゲストハウスで地域活性化～
5	経営情報	富山県におけるコミュニティ防災の重要性
6	経営情報	常願寺川の治水事業の課題と展望

(3) 卒業論文要旨集の作成と配布

- ・2016年度（平成28年度）より現代社会学部において、全専攻全学生の卒業論文の要旨を掲載する「卒業研究要旨集」を作成している。2020年度は卒業研究要旨集第5巻を作成し、関係者に配布した。
- ・2020年度は103件の研究を掲載し、そのうち52件が富山県内の地域の課題とその解決を題材として取り上げたものであった。



卒業研究要旨集第5巻（2020年度）

(4) 副専攻プログラム

- ・2020年度は、副専攻プログラムの修了者として、2名の学生が認定された。内訳は、グローバル人材育成プログラムについて1名、地域創成人材プログラムについて1名であった。

(5) 富山県寄付講義(現代社会学部)

- ・研究や地域活動などの現場で活躍するスペシャリストを講師として招き、富山県寄付講義を実施した。現代社会学部において注目されており、現代社会学部の学生にとって重要であると考えられるテーマを、学長、学部長、専攻長が中心となって選定した。
- ・2020年度は、以下の6講座を開講した。

2020年度(令和2年度) 現代社会学部 富山県寄付講義

	日時・会場	専攻名・授業名・講義テーマ	講師名
1	10月19日(木) 13:00～12:10 東黒牧C 大講義棟I	学部共通 「情報科学概論」 「データサイエンス・AIの動向と 産業応用事例」	本橋 洋介 氏 NEC AI・アナリティクス事業部・ シニアデータアナリスト
2	11月4日(水) 10:40～12:10 東黒牧C 大講義棟I	経営情報専攻 「経営情報概論」 「グローバル化の中の日本経済展望 ー新型コロナウイルスの荒波に どう立ち向かうか」	高木 繁雄 氏 富山商工会議所 会頭
3	11月17日(火) 10:40～12:10 東黒牧C 大講義棟I	学部共通 「教養演習II」 「RPG的生き方・脱コンフォート ゾーンのススメ」	大場 由太 氏 SOLTILO UGANDA Ltd. 代表 /SOLTILO Bright Stars FC ゼネラルマネージャー
3	11月19日(木) 13:00～14:30 東黒牧C 4号館 441室	環境デザイン専攻 「環境デザイン特別講義」 「新型コロナ時代での環境福祉学」	炭谷 茂 氏 社会福祉法人 恩賜財団済生会 理事長 富山国際大学 客員教授
5	11月26日(木) 10:40～12:10 東黒牧C 大講義棟I	観光専攻 「観光概論」 「昆布がもたらす食文化の多様性と 富山に見られる地域の矜持」	遊佐 順和 氏 札幌国際大学短期大学部 教授
6	1月8日(金) 10:40～12:10 東黒牧C 4号館 441室	英語国際キャリア専攻 「国際キャリア概論」 「国際協力の現場から ーベトナムの人々と食・農・地域 づくりに挑むー」	伊能 まゆ 氏 特定非営利活動法人 Seed to Table 代表

(6) 授業改善に向けたFD活動

1) 授業評価アンケート

- ・2020年度(令和2年度)の授業において、学生に対して実施した授業評価アンケートの結果をもとに、全専任教員が授業内容を振り返り、授業改善の成果などについて考察した。授業評価アンケートの結果については全教員が知見を共有するとともに、抜粋したものを学生全員が閲覧できるようにした。

- ・2016年度（平成28年度）後期からWEBアンケートを実施しており、教員が授業アンケート結果を分析することにより、授業内容のさらなる改善を図っている。

2) FD 研修会開催実績

①オンライン授業に関する合同研修会 2020年（令和2年）8月25日（水）13:00～17:00

- ・対象： 大学、短大、付属高校の全教員、職員
- ・内容： 「Zoom を用いたオンライン授業に関する意見交換等」

②現代社会学部第1回FD研修会 2020年（令和2年）9月9日（水）10:30～12:00

- ・テーマ：「次世代大学教育を考えるための教育のIT化
～教育のデジタルトランスフォーメーションに向けて」
- ・対象： 全教員
- ・目的： ITツールをうまく活用していくことにより、教員の負担を軽減できる可能性や、より一層の教育効果を上げられる可能性がある。そこで、教育のIT化についての理解を深めること、教員が適切なITツールを選んで活用できるようになることを目的とした。
- ・講師：上坂博亨、高尾哲康、河野信
- ・内容： 教育のデジタルトランスフォーメーションとはどのようなことを意味するのか、概略について説明がなされた後、ITツール（Office365、WEB シラバス、TEAMS）について、授業に役立つさまざまな機能が紹介された。また、各教員がパソコンを用いて実際に操作することにより、理解を深めた。

③現代社会学部第2回FD研修会 2021年（令和3年）3月10日（水）15:15～16:45

- ・対象： 全教員
- ・テーマ① 「大学におけるSDGsの活性化に向けて」
- ・目的： ①Sustainable Development Goals（SDGs、持続可能な開発目標）についての理解をさらに深めるとともにSDGs推進に向けて大学ができることについて考えていくことを目的として実施した。
- ・講師： 堺 勇人 氏（PEC とやま 事務局長）
- ・内容： SDGsの基本的な考え方や概念についての説明がなされた。また、SDGs推進に向けて大学ができることのヒントなどの話があった。

テーマ② 「新カリキュラムの基本方針について」

- ・目的： 2021年度からの新入生を対象とした新カリキュラムの基本方針について
- ・講師： 佐藤 悦夫 学部学務委員長
- ・内容： 主な内容は、新カリキュラムの基本方針についての情報共有であった。旧カリキュラムからの変更点についての説明と質疑応答があった。

④現代社会学部FD・SD研修会 2020年（令和2年）10月19日（月）13:00～14:30

- ・テーマ：「データサイエンス・AIの動向と産業応用事例」（情報科学概論と同時に実施）
- ・講師：本橋 洋介 氏（NEC AI・アナリティクス事業部・シニアデータアナリスト）
- ・対象： 大学の全教員、職員
- ・目的： 人工知能（AI）についての基本的な知識を得ることを目的とした。
- ・内容： AIとは何か、AIの産業応用事例、AIがもたらす未来、AIの実用に向けて、実例を交えての講義がなされた。

⑤FD・SD 研修会 2020 年（令和 2 年）9 月 10 日（水）15:00～16:00

- ・対 象： 大学の全教員、職員
- ・テーマ：「最近のキャンパス・ハラスメントを考える～性暴力被害の防止対策も含めて～」
- ・目 的： キャンパス内におけるハラスメントをなくし、よりよい職場環境、教育環境を目指すために研修を実施した。
- ・内 容： キャンパス・ハラスメントの定義について確認するとともに、大学において起こり得るハラスメントについて学んだ。ハラスメントがもたらすものは人権侵害であることを学んだ。また、「富山国際大学ハラスメントの防止等に関する規程」を確認した。

3) その他

オンライン授業を実施できるようになるため、zoom の使用方法についての説明会が 4 月 15 日～17 日にかけてオンラインで開催された（いずれも 1 回 1 時間）。

2. 今後の課題

（1）教育の充実

- ・2021 年度の入学者より、新カリキュラムの教育が開始する。新カリキュラムにおける主な変更点は、①教養科目、基盤科目、専攻科目の 3 層構造を明確にしたこと、②キャリア科目を充実したこと、③学生の興味関心に応じて外国語科目や情報科目に力を入れて学べるようにしたこと、④学生の興味関心に応じて他専攻科目を柔軟に履修できるようにしたこと、⑤専門演習Ⅱの単位数を 12 単位から 8 単位に変更するかわり、実習の機会を増やしたこと、などである。これらを通して教育のさらなる充実を図っていく。
- ・2018 年度（平成 30 年度）からスタートした「英語国際キャリア専攻」では、2021 年度には全科目が開講されることになる。英語国際キャリア専攻の専攻科目全体のさらなる充実を図っていく。

（2）GPA の成績評価への活用

- ・2019 年 4 月から学期の GPA（Grade Point Average）が 1.0 未満であった学生に対してフォローを実施しているが、担当教員のみならず、他の教員を含めた総合的なサポートを行える仕組みをさらに充実させていく予定である。
- ・現行制度では意図的に登録単位数を減らすことにより、GPA の数値を上げようと試みる学生がいる。このため、学生の表彰などの際に GPA をもとに選考すると、学ぶ意欲が高いために多くの授業を履修した学生が不利になる場合もある。今後、成績による学生の表彰などには、登録単位数で割らずに Grade Point の合計で評価するなど、意欲のある学生が不利にならない仕組みの検討が必要である。

（3）卒業研究のレベルアップ

- ・卒業論文に関しては、優秀卒業論文の表彰の実施や各専攻による卒論発表会の活発化により 5～6 年前よりも向上していると思われる。2020 年度は、対面での指導や学外での調査研究が困難だった時期もあった中での卒業研究であった。2021 年度は、卒業研究についてのルーブリックが導入されることから、これを卒業研究のレベルアップにつなげたい。

（4）今後の FD 活動

1) FD 研修会の検討

- ・2018 年度までの FD 研修会では、授業をよくするための技術的な研修や授業参観、2019 年度は教員個人の研究報告を実施した。しかし、2020 年度は、コロナウイルス感染症拡大防止のためにオンライン授業を実施する必要が生じたことにより、オンライン授業の実施方

法についての研修が多かった。研修で取り上げた事柄は、対面授業においても利活用可能なものや作業の効率化につながるものもあったため、今後も継続的に利活用できると考えられる。

- ・授業参観については廃止したわけではなく、教員が他の教員の授業をいつでも参観してよいことになっている。2021 年度も自主的に教員同士が学びあう仕組みを継続していく。
- ・今後も教育の質の向上につながる研修を実施していく。

2) e ラーニングの活用

- ・e ラーニングについては、入学前教育、学期のオリエンテーション、教養演習・専門演習などを通して学生に利用方法を紹介してきた。ただし、教養演習の授業時間内では実施しなかったため、あまり利用頻度が多くなかったようである。今後、学生の利用状況や課題について調査し、どのように活用していったらよいか検討していくことが課題である。

3. アクションプランへの自己評価

(1) 2020 年度実施内容と評価

指針 3(4) 基礎学力の向上を目指す tuins.e-ラーニングの活用については、キャリア・デザイン a の課題として導入し、全員満点を取るまで繰り返し e-learning をすることを課題にしたため、利用率は大幅に上昇した。(評価：◎)

(2) 2021 年度実施予定項目

指針 3(4) tuins.e-ラーニングの活用については、引き続き 2020 年度と同様の方法で実施する。

9. 学生活動・生活支援

1. 実績・現状

(1) 学生主体の大学づくりに向けた取組み

1) 学生との意見交換会の開催

- ・学友会役員、大学祭実行委員会実行委員長、クラブ会会長および学長、学部長、学務部長、学部学務委員長、事務部長との懇談会を開催し、学生との意見交換、学生生活・授業・施設に関する要望等の聴取を行った（2020年12月22日実施）。大学構内、学内施設の環境整備に関する要望（トイレ、駐車場の融雪など）やオンライン授業の配信に関する要望（補講を休日に実施、対面授業との併用など）があり、適宜改善できるよう検討することとした。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響により、食堂が従来どおり運営できず食堂の利用可能日が少なかった。そのため、食堂活性化プロジェクトチーム会議は開催できなかった。簡易コンビニの設置は、年度内に実施できず、次年度の事業として継続することとなった。

2) 学生主体の大学行事運営とその支援

- ・各種行事において学生が主体となって運営することを促し、教職員がサポート役に回ることとで学生の自主性の向上を試みたが、新型コロナウイルス感染症防止対策を講じる必要があり、各種行事・イベントが中止された。一方で、感染防止対策に留意しつつも、大学オリジナル日本酒造り、オンラインを通じた大学祭の開催など新たな学生主体の活動も進められた。今後は、コロナ禍における学生主体の活動のあり方を模索していく必要がある。

【新型コロナウイルス感染症防止のため、中止になったイベント】

- ①新入生歓迎会
- ②スポーツ文化交流会
- ③東黒牧キャンパス交通安全運動

【新型コロナウイルス感染症防止に留意しつつ、実施されたイベント】

- ④大学オリジナル日本酒造り(2020年3月～2021年1月)
- ⑤学友会総会(2020年7月29日)
- ⑥オープンキャンパス(2020年8月23日)
- ⑦園児たちと干し柿作りイベント!!(2020年10月19日)
- ⑧大学祭(紅嶺祭・オンラインにて開催)(2020年10月24日)
- ⑨クリスマスイベント(イルミネーションの点灯、クリスマスケーキの配布)
(2020年12月～2021年2月)
- ⑩クラブ会総会(2021年3月5日)

※実施された主なイベントの概要

- ・大学祭は、オンラインにて開催(2部構成)が実施された。大学祭実行委員会が主体的に運営を担い、第1部では女子ハンドボール部、サッカー部、硬式野球部、陸上競技部、ボート部など運動系クラブの他、個人動画および教員紹介について事前に撮影した動画が配信された。また、お笑い芸人のライブ配信も行われた。第2部では、国際交流サークルやボードゲームサークルの実演、吹奏楽部の演奏、留学生による自国料理の披露などが行われた。オンラインでの開催は、学生にとって初めての経験であり、苦労も多々あったようだが、開催実現を通じて成長につながったようであった。
- ・こども育成学部の学生と協働で実施する行事については、Web会議やメーリングリストなどITを活用することで、スムーズな情報共有を図ることができた。
- ・学生の活動を、広報誌のコスモス通りやホームページで積極的に紹介した。

- ・例年、卒業式終了後に行っていた「卒業記念パーティー」については、新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、中止にした。

(2) 学生生活関係アンケート

1) 学生生活アンケート(2020年9月末に実施)

- 例年どおり、学生生活の実態（通学、クラブ・サークルへの所属状況等）及び学生生活の満足度などを聞いた。回収率は77%。特筆すべき回答結果は以下のとおり；
- 半数以上の学生がクラブ・サークルに所属しているが、各学部1年次での所属数は大幅減少。
- 学生の7～8割程度がアルバイトをしているが、コロナ禍のためか、昨年度より数は減少。
- 学生が授業時間外で学習するのは、5時間以内が大部分。
- 高学年で、ゼミ教員指導への満足度が増加。また、本学を後輩等に「勧めたい」趣旨が増加傾向を見せた。

2) 卒業生アンケート(2021年2月、各専攻卒業論文発表会終了後に実施)

- 例年どおり、卒業生を対象に、現代社会学部への印象を聞いた。回答は93人（回収率91.2%）。特筆すべき回答結果は以下のとおり；
- 入学から卒業までの間で自分は成長したと感じた学生は98%だった。
- 特に伸びた力（複数回答可）は、「自己管理能力」「プレゼンテーション力」「チームワーク（力）」だった。
- 本学で学ぶことを「勧めたい」という卒業生は72%で、前年より19%増加した。

(3) 学生支援チームの取組み

- ・学生生活に困難を抱える学生を支援する体制を強化するために、学部長、学部学務委員長を含む4名から構成される学生支援チームを2017年度に設置。2020年度は、9月29日に第1回ミーティング、3月23日に第2回ミーティングを実施した。
- ・ミーティングでは、配慮を要する学生の状況の共有、学生支援および留学生の指導に関する課題抽出、対応策の検討を行った。配慮を要する学生に関しては、学習指導のみならず、保健センター、キャリア支援センター等との連携の必要性、一貫したサポート体制の構築が必要であること、クラブ活動の学生については、寮生活等の生活面を含めたメンタル支援など、きめ細やかな指導が必要であることが確認された。

(4) 学生トラブルにかかわる啓発活動

- ・昨今、学生を取り巻くトラブルが多様化しており、アルバイトや就職活動、サークル活動を騙った悪質な商法、投資への誘導にかかわるトラブル、インターネットにかかわるトラブル等が多発している状況から、2018年度より、富山消費者生活センターの協力のもと、啓発講義を実施している。例年、全学年を対象に前期・後期オリエンテーションごとに富山県消費生活センターによる講習会を実施していたが、新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、2020年度は後期の合同教養演習時に1年生のみを対象に実施した。

(5) 学生活動の広報活動

- ・スポーツ文化交流会などの学内活動、啓発講義などの取組み、ゼミナール活動、学生の学外における活動（富山県青年議会への参加や国際交流イベントへの参加等）は、新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、中止となった。部・サークル活動の業績などについては、積極的にホームページで紹介した。

(6) 交通安全指導

- ・例年、行われている学生主体の交通安全運動(ティッシュ配付による交通安全の周知徹底、駐車場の利用マナーの向上)は、新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、中止となった。

(7) クラブ・サークル活動(活動休止中のものを含む)

[部：9 団体] 硬式野球部、サッカー部、女子ハンドボール部、ボート部、軽音楽部、吹奏楽部、ボランティア部、陸上部、男子バスケットボール部 (活動休止中)

[サークル：13 団体] バドミントンサークル、環境サークル、芸術サークル、国際交流サークル、ボードゲームサークル、バスケットボールサークル(活動休止中)、水泳サークル(活動休止中)、ダンスサークル(活動休止中)、English Media Club(活動休止中)、経済リサーチサークル(活動休止中)、茶道サークル(活動休止中)、語学サークル(活動休止中)、アクティブサークル(活動休止中)

(8) 「夢への架け橋助成事業」の改善、活性化

- ・ゼミ活動などを通じた夢への懸け橋事業への応募について検討した結果、2020 年度は申請数が全 8 件となり、現代社会学部からは 4 件の事業が採択された。以下のとおり、他分野にわたる取組みがなされた。

[事業名 (助成金額、円)]

- 体力回復プログラム (95,000)
- 小学校体育授業サポート (74,000)
- 科学実験教室・自然体験ボランティア活動 (100,000)
- 高濃度 CO2 利用による付加価値の高い農作物栽培への挑戦 (210,400)
- TUINS サッカー教室 2020 及び TUINS サッカー大会 (90,000)
- 大学オリジナル・日本酒プロジェクト (100,000)
- こころのプロジェクト(コロナに負けるな！こども食堂ローカル P) (100,000)
- 限界集落支援事業 (138,100)

2. 今後の課題

(1) 学生主体の大学行事運営を支援

2020 年度の大学祭は、コロナ感染症の拡大を防止する目的で、一日限り、かつオンラインでの開催になった。2021 年度は、5 月末時点でコロナ感染症が収束していないため、「一日限り、オンラインでの開催」と決まった。現代社会学部では、学友会が運営を担う。大学側は、学生たちが最大限自主性を発揮できるように、臨機応変に対応する。

(2) キャリア支援の継続

学生のキャリア支援などでは、各種学内部署、委員会の連携強化を図る。

(3) 子ども育成学部との交流

子ども育成学部との交流は、引き続き拡大の方向で方法を検討する。

3. アクションプランへの自己点検

(1) 2020 年度実施内容と評価

- ① 指針 1(5) ゼミ担当教員が振り返りシートを作成し、半期ごとに学生生活の記録を作成した。
(評価：○)
- ② 指針 3(2)キャンパス活性化事業として、1.地域との協働型森作り活動はコロナ禍で中止。2. 環境サークルの花壇整備活動は実施。3.学生と教職員協働のイルミネーション(12 月～2 月まで)は実施。4.コンビニ設置企画(令和 3 年度オープン予定)(評価：◎)

- ③ 指針 3(3) 学生支援チームの会議を 2 回開催し、情報交換及び課題と対策の意見交換を行った。(評価：◎)
- ④ 指針 3(3) 学生を取巻くトラブルを回避できるように、オリエンテーション等の機会で啓発することは、コロナ禍により前期には実施できなかったが、後期に外部講師を招いて実施した。(評価：○)

(2) 2021 年度 実施予定項目

- ① 指針 1(5) 学期の節目でゼミ担当教員が履修指導とともに振り返りシートを活用してアドバイスをする。支援の必要な学生のニーズに応じて、子ども育成学部・福祉系の教員に相談できる体制を整備する。
- ② 指針 3(2) 引き続き定着してきたキャンパス活性化事業を今年度も実施。また、積極的に学生が参加できる仕組み作りを行う。東黒牧キャンパスの活性化として、キャンパス内に花壇を作り、花で潤う環境を作る。
- ③ 指針 3(3) 支援チームによる打ち合わせを学期ごとに実施し、配慮の必要な学生の支援につなげる。
- ④ 指針 3(3) 学生が事件・事故に巻き込まれないように、オリエンテーション等の機会を通じて、交通安全・消費者トラブル・薬物などに関する注意喚起を実施する。

10. キャリア支援

1. 実績・現状

(1) キャリア支援講座

3年次必修科目。社会に出るための準備として「キャリアモデル形成」、「自己分析」、「企業研究」、「実践講座」の4つを柱として、通年にわたり授業を展開した。

前期キャリア支援講座aは、インプットをメインに、自己分析や企業研究の方法やノウハウを学習させた。具体的には、外部ツールを利用した自己分析、SPI対策、企業検索サイトの紹介、履歴書・エントリーシート作成などを行なった。

後期キャリア支援講座bは、アウトプットをメインとして、前期授業の実践として、スーツの着こなし方、マナー講座、グループディスカッション、OBとの交流会、4年生の就職体験談、模擬面接、そしてコロナ禍で多くの企業が導入したWEB面接対策など、就職活動を意識した実践的な授業を展開し、2月に地元企業の方々に協力を仰ぎ、「学内企業研究会」を開催し、就職活動に備えた。

(2) キャリアデザイン講座

1年次必修科目。当年度より見直しを図り、前期キャリアデザイン講座aでは大学4年間でどのように過ごし、大学生活でどのように自分自身を成長させるかを考えさせ、卒業後の自分をイメージできるよう4年間の計画を立てさせた。また、大学入学を機にアルバイトを始める学生も多いことから労働法の講義や、就職活動を意識させたSPI対策なども実施した。

後期キャリアデザイン講座bでは、地域社会に目を向けるよう新聞の読み方や、文章能力を高めるために作文を書かせるなど、「読み書き」を中心とした授業を展開した。

(3) インターンシップ（8月～9月）

「富山県インターンシップ推進協議会」主催のインターンシップ（実働日数5日間以上）の参加者数は20名であった。このほか、会社都合により中止、短縮となった学生3名は、複数の研修先で短期インターンシップに参加し、受入先企業・機関の評価および事前・事後研修への参加態度等についての判断を行い、計23名が単位認定された。海外インターンシップについては、コロナ禍により実施できなかった。

(4) 「大学コンソーシアム富山・合同企業訪問」

大学コンソーシアム富山主催の本研修については、2020年度は現代社会学部2年生、3年生に参加を呼びかけ、73名が参加し、富山大学、富山県立大学等の他大学と合同での研修を行った。

(5) 「令和2年度 富山国際大学 企業・事業所・大学講演会」

同講演会を、以下の内容でオンライン（zoom）開催した。

日時：2020年11月20日（金）15:30～17:10

場所：オンライン開催（zoom）、

通信機材設置及び大学関係者は東黒牧キャンパス本部棟2階大会議室

講師：株式会社ソニックガーデン 代表取締役副社長 藤原 士朗 氏

演題：「コロナ禍で何も変わらなかった理由」

参加企業数： 39社（講演会出席47名）本学の教職員を併せると、42社（＋大学職員＋現代社会学部＋子ども育成学部）、出席者80名（大学HPに記載した数）

(6) 模擬面接実習の実施

就職の個人面談に向けた実習を下記の2回に分けて実施した。

- ① 2020年12月17日～24日
- ② 2021年1月12日～19日

(7) 学内企業研究会

企業の採用担当者を学内に招いて開催している企業研究会だが、本年度はコロナ禍での開催ということで、開催方法を慎重に検討した。参加いただく企業数を両日とも約43社、計86社に限定し、以下のとおり開催した。これは、3年生の必修科目である「キャリア支援講座」の一部としても位置付けられている。例年は3月に「合同企業説明会」として開催していたが、企業の採用活動の早期化を踏まえ、昨年度(2020年2月)から「学内企業研究会」として開催することにした。なお、子ども育成学部 of 学生も数名参加している。企業からの「アンケート結果」については、「求人状況」、「印象に残った学生」といった内容も含むため、ゼミ担当教員全員に配付し、学生への就活指導に役立てることとした。

日時：2021年2月12日、2月16日

場所：東黒牧キャンパス 厚生棟

参加企業数：2月12日 43社、2月16日 43社

(8) 就職状況

2020年度は就職希望者89名に対して内定率は100%となった。就職実績ならびに内定企業については次表のとおりである。2018年度、2019年度に続き地方自治体の行政職に1名採用されたほか、本学から就職実績のなかった情報通信業やサービス業にも内定している。進学については、富山大学大学院に1名合格した。

2020年度富山国際大学就職実績(2021年4月23日現在)(単位：人)

2021年4月23日現在
単位：人

学部	性別	卒業者	就職希望者	内定者	内定率	未内定者	進学・留学希望者	内進学・留学決定者	進学も就職もしない
現代社会	男	60	55	55	100.0%	0	0	0	5
	女	42	34	34	100.0%	0	1	1	7
	計	102	89	89	100.0%	0	1	1	12
子ども育成	男	23	20	20	100.0%	0	3	3	0
	女	91	86	86	100.0%	0	2	2	3
	計	114	106	106	100.0%	0	5	5	3
合 計	男	83	75	75	100.0%	0	3	3	5
	女	133	120	120	100.0%	0	3	3	10
	合計	216	195	195	100.0%	0	6	6	15

(現代社会学部の卒業者数には、前期卒業生女子1名含む)

内定企業リスト

【現代社会学部】

D 建設業		アルカスコポーレーション㈱、正栄産業㈱、㈱オリバー、ケミカルグラウト㈱、㈱日本空調北陸、㈱サブラ、㈱キャプティ
E 製造業	食料品・飲料・たばこ・飼料製造業	富士化学工業㈱、バイホロン㈱、㈱あいば食品
	化学工業、石油・石炭製品	三光合成㈱
	鉄鋼業、非鉄金属・金属製品	㈱CKサンエツ、㈱ユニゾーン、㈱岩沢製作所、宮越工芸㈱、三協立山㈱、中越合金鋳工㈱、STメタルズ㈱
	はん用・生産用・業務用機械器具	㈱石金精機
	電気・情報通信機械器具製造業	ホシザキ北信越㈱
	その他(木材・木製品・パルプ・紙・紙加工品等)	
F 電気・ガス・熱供給・水道業		㈱丸八、富山石油㈱、㈱サンリン
G 情報通信業		共同コンピュータ㈱、㈱高志インテック、㈱ほくつう、㈱北陸ジーエスシー、㈱北日本新聞社
H 運輸業、郵便業		エムケイ㈱、富山地方鉄道㈱、トナミ運輸㈱
I 卸売業、小売業	卸売業	㈱北陸電機商会、大阪電機商事㈱、北陸コカ・コーラボトリング㈱、リコージャパン㈱、ホクリク住材㈱
	小売業	㈱品川グループ本社、生協CO・OPとやま、㈱ケーズホールディングス、富山県生協、㈱クスのアオキ、㈱大阪屋ショップ、トヨタカローラ富山㈱、アルビス㈱、㈱米三、㈱エーツー、セントラルメディカル㈱、富山いすゞ自動車㈱
J 金融業、保険業	金融業	㈱富山銀行、㈱富山第一銀行、新湊信用金庫
	保険業	明治安田生命保険相互会社
K 不動産業、物品賃貸業		GA technologies
L 学術研究、専門・技術サービス業		㈱マーキュリー
M 宿泊業、飲食サービス業		㈱ゼンショーホールディングス、ワンダフルハーツ㈱
N 生活関連サービス業、娯楽業		
P 医療、福祉	社会保険・社会福祉・介護事業	富山県厚生農業組合連合会
Q 複合サービス事業		いみず野農協、あおば農協、㈱スカイインテック
R サービス業 (他に分類されないもの)	その他	㈱フレスターン・インターナショナル富山BPOアウン、富山県総合警備保障、㈱ホリプロデジタルエンターテインメント
S 公務	国家公務	
	地方公務	入善町役場、富山県警察

【子ども育成学部】

D 建設業		富山交易(株)
E 製造業	印刷・関連連業	(株)立業社
G 情報通信業		(株)ほくつう、(株)富山富士通
H 運輸業、郵便業		丸栄運輸機工(株)
I 卸売業、小売業	小売業	富山トヨタ自動車(株)、(株)インディオ富山
M 宿泊業、飲食サービス業		やけるやんか千房
N 生活関連サービス業、娯楽業		セントラルスポーツ(株)、(株)テルズ&クイーン
O 教育、学習支援業	学校教育	富山県公立学校教員(32)、富山県臨任講師(5)
P 医療、福祉	社会保険・社会福祉・介護事業	富山市社会福祉士(2)、高岡市社会福祉士 (福)氷見市社会福祉協議会(臨時)、(福)砺波市社会福祉協議会 (福)射水福祉会(2)、(福)たかおか新生会、(福)セーナー苑(2)、(福)めひの野園(2)、(福)湊明会、 (医)真生会、(医)秋桜、(医)藤聖会、(医)子どもの家 (学)金沢医科大学金沢医科大学病院、(大)金沢大学附属病院、(福)聖霊病院、(福)恩賜財団済生会、 かみいち総合病院、黒部市保育士(会計年度任用) 富山市保育士(10)、高岡市保育士、射水市保育士、南砺市保育士、黒部市保育士(2)、滑川市保育士、 砺波市保育士 (福)アルペン会、(福)わかば福祉会(2)、(福)高陵児童福祉会、(福)ほうりん福祉会、(福)つつみ会、 (福)杉の子保育園、(福)穀行福祉会(2)、(学)華聴学園、(福)新川児童福祉会、(福)わかさ福祉会 (株)テノコーポレーション、HITOWAキッズライフ(株)
Q 複合サービス事業		なのはな農業協同組合
S 公務	地方公務	上市町役場、滑川市役所、氷見市役所、入善町役場

進 学 先	富山大学大学院理工学教育部、富山大学大学院人間発達科学研究科、上越教育大学大学院学校教育研究科(4)
-------	--

（９）情報発信

就職支援は保護者や受験生など外部の情報利用者からの関心も高く、出口保証は進学する際に大学を選択する要素の１つでもある。そこで、就職支援をはじめとする大学におけるキャリア支援は大学のPR材料でもある。これまでは、保護者会、学内イベント等で直接保護者や企業担当者、及び大学関係者に情報を発信していたが、コロナ禍で直接会う機会が激減した。そのため、大学ホームページ改訂を機に大学ホームページへの掲載も活発化させ、様々な取組をホームページ上で配信した。また、今年度一旦廃止した進路状況冊子は需要が多いため、次年度から再度作成し、進路実績を大学の取組と同様に学外に発信していきたい。

2. 今後の課題

今後の課題として、以下の点が挙げられる。

- ・就職希望者のうち、精神的な問題を抱える学生、コミュニケーション力に問題のある学生の就職支援のあり方については、本人への指導や支援のみならず、保護者や、必要な場合には専門家も含めた形で進める体制を整える努力をしていくことが、引き続き求められる。
- ・企業研究指導については、なおも十分とは言えない。学内企業研究会におけるアンケートにおいても、本学学生の企業研究や自己分析に関する評価が低く、また今年度は例年高い評価をいただいているマナー面でも指摘を受けた。
- ・学内企業研究会を２月に対面で開催したことは、企業の採用活動の動きを勘案すれば妥当だった。
- ・2018年度まで教養演習で実施していた１・２年生向けのSPI対策講座を2020年度以降、１年次のキャリアデザイン講座aで実施したことは、１年生からe-Learningを積極的に活用させるためであった。十分に活用されているかなど今後、注視する必要がある。
- ・2019年度は３月以降、新型コロナ問題の影響でほとんどの会社説明会が中止になるなど、就職活動をする学生はこれまでに無い対応を迫られている。特に、観光専攻の学生は、志望先の求人が激減し、志望する進路の変更を余儀なくされた。また、WEBを利用した説明会や面接等の選考活動が増えてきている。そのため３年生はWEB選考対応策として模擬面接をWEBで行い対策した。今後、継続的な支援を続けていくことが求められる。

3. アクションプランへの自己点検

（１）2020年度実施内容と評価

- ① 指針3(4) 基礎学力の向上を目指すtuins.e-ラーニングの活用については、キャリア・デザインaの課題として導入し、全員満点を取るまで繰り返しe-learningをすることを課題にしたため、利用率は大幅に上昇した。（評価：◎）
- ② 指針3(5)／指針4(1)OBとの交流については、後期に学内で富山県の協力の下に「Tターнкаフェ」を実施して就職活動を前にした３年生と卒業生との交流の機会を持った。また、２月に開催した学内企業研究会には人事担当者として本学卒業生の参加が複数企業であった。また特別に本学卒業生を同行して参加し、後輩にあたる在學生に自社紹介や質疑応答にあたらせる企業も何社かみられた。（評価：○）
- ③ 就職活動支援のため例年実施している企業訪問については、感染拡大予防のため大学独自で行わず、大学コンソーシアム富山が主催する合同企業訪問に参加を呼び掛けた。ただし、参加の際には、新型コロナウイルス感染予防対策をしっかりとった上で参加するよう指導した。（評価：○）

(2) 2021 年度 実施予定項目

- ① 指針 3(4) tuins.e-ラーニングの活用については、引き続き 2020 年度と同様の方法で実施する。
- ② 指針 3(5) / 指針 4(1) OB との交流については、前期に卒業生をキャリア支援講座 a に講師として招き、業務内容や企業紹介をしてもらい、3 年生の企業研究や職場訪問の機会を設ける。後期には、今年度も「T ターンカフェ」を実施して 3 年生と卒業生との交流の機会を設ける。また、2 月に開催予定の学内企業研究会参加予定の企業に可能であれば卒業生を同行していただくよう依頼する。
- ③ 就職活動支援のため例年実施している企業訪問については、今年度も新型コロナウイルス感染拡大により、個別での企業訪問が困難なため、大学コンソーシアム富山が主催する合同企業訪問に参加を呼び掛ける。ただし、参加の際には、新型コロナウイルス感染予防対策をしっかりとった上で参加するよう指導する。

1 1. 地域交流・地域貢献

1. 実績と現状

(1) 南砺市と富山国際大学及び富山短期大学の包括連携に関する連携協議会

第1回連携協議会

日時：2020年6月19日（金）10:05～11:10

内容：

- ・連携協議会規約改正：各機関の組織変更により、会員の職名の変更を行った。
- ・今年度事業：南砺サテライト・リレー講座は、大学では前期は中止、後期はオンラインでできないか検討中。短大では、今年度は実施しない。公開講座にこだわらず、高校生対象の授業を実施予定。南砺市長との懇談会・意見交換会は、出張学園祭での成果発表、1回目に市長から南砺市の実情・宿題・課題等を聞く。（市長提案）。8月中で調整、いろいろなものが変わってくる、様変わり リモートでも。富山国際大学「地域づくり実習」（上坂教授）では、南砺市エコビレッジ推進課と協力 ヒアリング、現地フィールドワーク、ケアセンターで発表会を行う予定。

第2回連携協議会

日時：2020年7月28日（火）13:25～14:35

内容：

- ・今年度事業：大学の大学祭＝出張学園祭は両キャンパスとも中止、代替の催しができるか検討中、規模縮小。短大の大学祭＝中止の方向で検討中、代替の催しも検討中。
- ・南砺市長との懇談会・意見交換会：資料「南砺市包括連携に伴う実施企画案（たたき台）」が篠田先生より説明。
- ・その他：「冬休みの南砺市中学生の学習支援事業」（子ども育成学部学生）→未定確認中

第3回連携協議会

日時：2020年9月24日（木）10:31～11:29

内容：

- ・出張学園祭：大学の大学祭＝両キャンパスとも中止、代替の催し検討中、規模縮小。短大の大学祭＝中止決定、代替の催し検討中。11/3の井波文化祭＝規模縮小、一定の制限の下で開催予定。
- ・南砺市長との懇談会・意見交換会：実施することとなった。
- ・その他：「子どもの権利条約フォーラム2020 in 南砺」について、南砺市教育委員会子ども課・川田主任より、本催事についての協力依頼（参加、ボランティア等）があった。チラシ等を送っていただき、周知することとなった。

第4回連携協議会

日時：2020年10月15日（木）10:03～10:47

内容：

- ・南砺市長との懇談会・意見交換会：若者が新たな地域づくりに参画する機会を設けることで、市民としての役割を果たすことの大切さを認識してもらい、地域活性に結びつける。第1回「田中市長による南砺市の現状説明と課題提示」について、詳細を打合せする。

第5回連携協議会

日時：2020年11月17日（火）16:35～17:28

内容：

- ・「南砺市長とのタウンミーティングと学生による企画・プレゼンテーションコンテスト」：資料「アンケート集計結果」により、当日参加者数（205名＝学生180名、他教職員・関係者）、アンケート回答数（177名）等の概要報告の後、当日の感想、第2回に向けて意見交換した。第2回に向けて、市長へのプレゼンは、大学・短大、各3チームで計6チーム（希望多数の場合は内部で事前審査）。
- ・その他： 南砺市版SDGsロゴマークの募集について、南砺市エコビレッジ課から、広く学生に周知・応募してほしいとの依頼があった。

（2）黒部市・黒部商工会議所との包括連携に関する連絡協議会

第1回連絡協議会

・日時： 2020年11月27日（金）9:59～11:30

・内容：

- ・商店街活性化支援事業：「三日市商店街がんばる黒部応援券「とく得セール」事業」（誘客促進、消費拡大、活性化）市の応援券利用者に、三日市商店街限定で利用できるオリジナル商品券の発行及びPR。
- ・中心市街地等調査事業：RESASによる黒部市のデータ分析資料を紹介。
- ・インターンシップ事業：本学学生向けのインターンシップ受入企業を募集する。
- ・その他：本学佐藤悦夫教授と佐藤ゼミ3年生10名が、黒部商工会議所との共同研究の一環として、宇奈月麦酒館並びに宇奈月温泉を訪れる観光客の動向調査を行った。
- ・国際化推進事業（宇奈月温泉におけるアジア観光客拡大の可能性に関する探索的調査）について報告と意見交換が行われた。

（3）富山国際大学 地域交流センター会議

第1回地域交流センター会議

日時：2020年11月27日（金）9:59～11:30

内容：

- ・今年度開講予定講座：基本的に前期9月までは集合しての講座は実施しない。後期に向けて検討する。エクステンション・カレッジ講座＝中国語（後期からの予定）、英語（オンラインでできないか模索中）。
- ・地域連携年報 第5号（2019年度版）：データ集約中、冊子は作成せず、PDFとする。校正依頼する。
- ・大学コンソーシアム富山・地域貢献部会：「2020年度学生による地域フィールドワーク研究助成事業」 本学1件採択（大谷ゼミ）
- ・自治体との連携：南砺市との連絡協議会、黒部市との連絡協議会

第2回地域交流センター会議

日時：2020年8月7日（金）11:33～12:00

内容：

- ・今年度開講講座：エクステンション・カレッジ講座＝英語 前期リモートで試験的に実施「英語教室」
- ・地域連携年報 第5号（2019年度版）の作成：データ集約中（巻頭のセンター長挨拶）のみ。 →完成予定

- ・「令和2年度とやま呉西圏域調査研究事業」：1件応募 → 審査結果はお盆前の予定、川本先生「山ぶどうワインの6次産業化を目的とするワインバー開設による地域活性化」
- ・南砺市との連絡協議会：7/28(火)13:25～南砺市福光庁舎、出張学園祭は再検討、南砺市長との懇談会

第3回地域交流センター会議

日時：2020年9月29日（火）12:30～12:54

内容：

- ・今年度開講講座：エクステンション・カレッジ講座、語学講座＝英語、後期開講 リモート、中国語 後期開講 10回 10/8(木)から毎週 対面
- ・「令和2年度とやま呉西圏域調査研究事業」：1件採択、川本先生「山ぶどうワインの6次産業化を目的とするワインバー開設による地域活性化」
- ・南砺市との連絡協議会：南砺市長との懇談会は「南砺市長とのタウンミーティングと学生の企画コンテスト」実施。
- ・企業との連携：前田建設工業北陸支店、8/27(木)教職員に向けて依頼内容説明、9/16(水)学生に向けて内容説明・意見交換。

第4回地域交流センター会議

日時：2020年10月20日（火）12:30～12:56

内容：

- ・今年度開講講座：エクステンション・カレッジ講座、語学講座＝英語 後期開講 10/10(土)10:30 8回 オンライン+CIC 学習室、中国語 後期開講 10/8(木)14:40 10回 対面 東黒牧C402室
- ・南砺市との連携協議会：10/15(木)10:00～オンライン会議、「南砺市長との懇談会・意見交換会」
- ・黒部市・黒部商工会議所との連絡協議会：10/16(金)第1回協議会に向けての事前打合せ会実施。

第5回地域交流センター会議

日時：2020年12月1日（火）～4日（金）

内容：

- ・次年度の予算：予算計上事業として、本年度とほぼ同様。
- ・エクステンション・カレッジ講座：語学講座（英語・中国語）
- ・自治体との連携：南砺市との連携は10/26(月)南砺市長とのタウンミーティング。当日参加者数（205名＝学生180名、他教職員・関係者）、アンケート回答数（177名）
- ・黒部市・黒部商工会議所との連携：11/27(金)10:00 第1回協議会 開催、12/5(土)の「星空ドライブインシアター来場者アンケート調査」の募集

2. 今後の課題

- ・2020年度はCOVID-19の影響の影響で、「エクステンション・カレッジ」は、参加人数は大変少なく推移した。2021年度においては、コロナ後の開催を考えて、講座の抱き合わせなどの工夫によって、効率よい運営が期待される。
- ・地域連携の活動は、教員ごとに行っており、全体的な把握と連携ができていない。2021年度は、よりいっそう地域交流センターへの情報集約が望まれる。そのための仕組み作りが課題となる。

- ・ 地域交流センターでの活動が情報提供のみに終わっていて、各教員の活動に結び付いていない。両学部、各専攻一体となった連携が望まれる。そのためには、それぞれのプロジェクトごとに、チームを決めて、そのチームで推進を図るなどの方法が望まれる。

《エビデンス 2020 年度分》

2020年度 エクステンション・カレッジ 受講者数

講座番号	開講日時	講座名	人数
特別	未定		
合 計			0

講座番号	開講日時	講座名	人数
開講せず		実用中国語(前期)	－
試行	5月16日～7月25日(8回)	Let's enjoy talking to each other in English.(前期)	7
1	10月8日～12月10日(10回)	実用中国語(後期)	6
2	10月10日～12月19日(8回)	Let's enjoy discussing things in English.(後期)	6
合 計			19

《エビデンス 2 過年度分》

2019年度 現代社会学部・子ども育成学部 サテライト市民講座 受講者数

講座番号	開講日時	講座名	受講者数
サテライト市民講座1			
1	5月18日(土)	絵画研究会	12
2	7月6日(土)	トレーニングで健康な毎日を！～競技スポーツのノウハウを生涯健康に生かす～	11
3	7月27日(土)	リラクゼーション法を体験しよう	19
4	9月14日(土)	最近の労働問題を考えてみよう～「人権」の視点からとらえ直す～	5
サテライト市民講座2			
5	10月5日(土)	世界遺産の現状と課題	15
6	10月12日(土)	立山砂防一目指せ世界遺産ー	11
7	11月9日(土)	欧州の再生可能エネルギー比率が30%を超えた！	16
8	11月16日(土)	地域活性化に向けた非営利組織の取組と課題	7
合 計			96

2019年度 エクステンション・カレッジ 受講者数

講座番号	開講日時	講座名	人数
特別	11月2日(土)	伝わる日本語とコミュニケーションコミュニケーション	68
合 計			68

講座番号	開講日時	講座名	人数
1	5月8日～7月17日(10回)	実用中国語(前期)	6
2	6月5日～7月3日(5回)	旅行とおもてなしのためのタイ文化とタイ語1	—
3	5月11日～7月13日(8回)	Let's enjoy talking to each other in English.(前期)	7
4	10月2日～12月4日(10回)	実用中国語(後期)	6
5	11月20日～12月18日(5回)	旅行とおもてなしのためのタイ文化とタイ語2	—
6	10月5日～12月7日(8回)	Let's enjoy discussing things in English.(後期)	8
合 計			27

2019年度 南砺サテライト リレー講座 受講者数

講座番号	開講日時	講座名	人数
1	6月8日(土)	タイの遊動狩猟採集民「ムラブリ族」の暮らしと国際大生による定住支援活動	4
2	6月11日(火)	新しい生き方の再発見	32
3	7月6日(土)	みんなの科学①動く？動かない？身近なふしぎを研究しよう！	5
4	7月27日(土)	ユニバーサルツーリズムから社会のデザインを考える	3
5	8月31日(土)	丹波篠山における山田孝雄	3
6	9月14日(土)	発達障害のある子どもの理解	5
7	9月21日(土)	笑いを忘れない人生	6
8	10月12日(土)	みんなの科学②電気って何？身近なふしぎを研究しよう！	4
9	11月16日(土)	新たな外国人材の受け入れと対応	3
合 計			65

黒部市・黒部商工会議所・富山国際大学 包括連携協定締結 記念講演会 来場者数

講座番号	開講日時	講座名	人数
記念講演	5月11日(土)	「地域の底力がつながって支え合うまちづくり」	100
合 計			100

3. アクションプランへの自己評価

(1) 2020 年度実施内容と評価

指針 3(2) 夢へのかけ橋事業では学部から3件の事業が実施され、学生の活力を高めることができた。(評価：○)

(2) 2021 年度実施予定項目

指針 3(2) 夢へのかけ橋事業で学部からの応募者が出るように、教員にも積極的に協力を呼びかける。

12. ホームページ・広報活動

1. 実績・現状

ここでは、入試関連の広報を除き、教員・職員による広報活動について示す。

(1) ホームページ

表 12-1 ホームページへのアクセス件数

年度	年間アクセス件数 (注)	一日平均件数	増減率（前年比）
2013 年度	約 433 万件	約 11,800 件	
2014 年度	約 490 万件	約 13,400 件	約 13%増
2015 年度	約 467 万件	約 12,800 件	約 5%減
2016 年度	約 473 万件	約 13,000 件	微増
2017 年度	約 505 万件	約 13,800 件	約 7%増
2018 年度	約 720 万件	約 19,700 件	約 43%増
2019 年度	約 900 万件	約 28,500 件	約 45%増
2020 年度	約 570 万件	約 16,000 件	約 37%減

(注) アクセス件数には画像、PDF ファイル等を含む。

2020 年度（2020 年 10 月）にクラウド型ウェブサーバに移行したため、来年度以降のアクセスデータは Google Analytics による集計が中心となる。

上記の 2020 年度アクセス件数には、新サーバのアクセス数は含まれていない。

表 12-2 ニュース&イベントへの投稿件数

年度	大学計	現代社会学部	子ども育成学部	各センター等
2013 年度				
2014 年度	285	95	88	102
2015 年度	235	79	75	81
2016 年度	210	75	65	70
2017 年度	190	84	39	67
2018 年度	218	84	76	58
2019 年度	216	106	47	63
2020 年度	73 125（新サーバ）	19	12	42

(注) 2020 年 10 月以降の投稿は新ウェブサーバが中心となった。

表 12-3 ホームページの更新

年度	更新内容
2013 年度	2012 年末に大学ホームページをリニューアル 3 専攻のホームページデザインを統一化 産業界 G P のホームページを作成 各専攻の話題や注目情報・ニュースなどを追加 シラバス、教員紹介、紀要データなどを更新・追加
2014 年度	専攻別のページの更新に取り掛かった。それぞれの専攻のカリキュラム概要、就職先、先輩からのメッセージ等の内容を更新した。
2015 年度	各専攻のページ、シラバス、教員紹介、紀要データなど、経常的な更新のみ。

2016 年度	各専攻・各センターのページ、シラバス、教員紹介、紀要データなど、経常的な更新のみであった。
2017 年度	各専攻・各部署のページ、カリキュラム、教員紹介、紀要データなどの更新。 2018 年度開設の新専攻（英語国際キャリア）のページを追加。 シラバスは別サーバに移転。
2018 年度	経常的な更新に加えて、英語国際キャリア専攻のページの充実、および経営情報専攻の情報系科目を充実させるなど、新カリキュラム関係のページを追加した。
2019 年度	昨年度に引き続き経常的な更新を実施。新カリキュラムの導入に伴い、カリキュラムツリーを充実させた。
2020 年度	引き続き経常的な更新を実施（2020 年 10 月まで）。 2020 年 10 月にクラウド型のウェブサーバに移行し、アクセス効率の向上を図った。

・ 東黒牧ニュースの発行件数

2014 年度：19 件

2015 年度：32 件

2016 年度：9 件

2017 年度：4 件

英語でのニュースの発信

2017 年度：7 件

2018 年度：0 件

（２）新聞

表 12-4 現代社会学部に関する記事掲載件数

年度	大学・学部・OB	学生の活動	教員の活動	計	備考
2013 年度				89	13 年 6 月～14 年 3 月 17 日。すべての新聞が対象。
2014 年度		85	36	121	14 年 3 月 17 日～15 年 3 月 19 日。すべての新聞が対象。
2015 年度	27	35	18	80	15 年 3 月 23 日～16 年 3 月 15 日。北日本新聞が対象。すべての新聞を対象にすると 118 件。
2016 年度					北日本新聞が対象
2017 年度					
2018 年度			5	5	北日本新聞世界遺産シリーズ（佐藤悦）
2019 年度			3	3	北日本新聞砂防シリーズ（尾畑）
2020 年度		3	5	8	北日本新聞、富山新聞、読売新聞

（３）放送（テレビ、ケーブルテレビ、ラジオ）

表 12-5 放送で取り上げられた件数

年度	テレビ	CATV	ラジオ	備考
----	-----	------	-----	----

2013 年度				
2014 年度				
2015 年度				
2016 年度				
2017 年度			秦野教授（4/月）	FM 富山
2018 年度	4		秦野教授（4/月）	FM 富山
2019 年度			フランク（4/月）	FM 富山
2020 年度			フランク（4/月）	FM 富山

2. 今後の課題

（1）ホームページ

2020 年 10 月に大学公式ウェブサーバをこれまでのオンプレミスからクラウド型（カゴヤ・ジャパン株式会社のレンタルサーバ、<https://www.kagoya.jp/>）に移行し、ホームページデザインを一新した。移行の過渡期であるため、旧ウェブサーバのアクセス件数は約 37%減となったが、コロナ禍による大学内での利用も含めて一昨年度とほぼ同程度のアクセス件数があった。来年度以降は公式サーバのデータが中心となる。

来年度はデザインが一新されたウェブサーバの活用を推進するとともに、大学広報の一環としてサービスの向上、アクセス件数の向上をめざす予定である。

（2）新聞

新規に作成された「報道機関発表様式」を活用し、大学の活動を積極的に対外発信するよう学内で促進する。掲載記事の管理については、組織的に管理しておらず実態が不明なことも多いことから、今後は広報業務の一環として担当部署と密接に連携していく。

（3）放送（テレビ、ケーブルテレビ、ラジオ）

2019 年度から続いていた、FM 富山へのマーク・フランク准教授（英語国際キャリア）の出演が、2021 年 3 月に終了した。積極的に放送系マスコミに出演できるようにしたい。

3. アクションプランへの自己評価

（1）2020 年度実施内容と評価

指針 4(1) 入学説明会、学外向けイベント、授業やボランティアなどの活動状況を HP 掲載し、大学のアピールに努めた。情報分野に関しては、データサイエンス・AI の寄付講座、30 周年記念シンポジウムなどの記事を掲載し、大学の取り組み状況をアピールした。（評価：○）

（2）2021 年度実施予定項目

指針 4(1) 入学説明会、学外向けイベント、授業やボランティアなどの活動状況を HP に掲載し、大学をアピールする。情報分野に関しては、データサイエンス・AI の寄付講座によって PR し、国際化に関してはコロナ禍の状況で可能な取り組みを実施し PR に努める。

1 3. 研究活動

1. 学会発表、論文発表および著書

1.1 学会発表

1. Satoshi Tanaka, Masaki Murase, Masaki Kato, Tsuyoshi Tabata, Maiko Kusano, Shin Kawano, Susumu Goto, Yasushi Ishihama, Akiyasu C. Yoshizawa, An extension of Mass++ ver.4, a data viewer, for proteome analysis, ASMS 2020, 2020.5.31-6.4, Online
2. 渡辺由、奥田修二郎、守屋勇樹、河野信、松本雅記、高見知代、小林大樹、幡野敦、山ノ内祥訓、荒木令江、吉沢明康、田畑剛、岩崎未央、杉山直幸、田中聡、石濱泰「jPOST リポジトリの機能強化」、トーゴの日シンポジウム 2020、2020 年 10 月 5 日、オンライン
3. Eric W. Deutsch, Yasset Perez-Riverol, Jeremy Carver, Shin Kawano, Pierre-Alain Binz, Benjamin Pullman, Ralf Gabriels, Tim Van Den Bossche, Luis Mendoza, Zhi Sun, Jim Shofstahl, Wout Bittremieux, Tytus D. Mak, Joshua Klein, Yunping Zhu, Henry Lam, Juan Antonio Vizcaíno, and Nuno Bandeira, The PSI Universal Spectrum Identifier (USI), HUPO Connect 2020, 2020. 10. 19-22, Online
4. Soichi Ogishima, Yoshinori Murakami, Yuichi Goto, Takayuki Morisaki, Seiya Imoto, Koichi Matsuda, Makoto Hirata, Hiroshi Yokota, Kichiya Suzuki, Fuji Nagami, Satoshi Nagaie, Yoshihiro Miyamoto, Tsutomu Tomita, Hideyo Noiri, Ryo Matsumura, Reiko Miyahara, Koji Kitajima, Shin Kawano, Mizuki Morita, Hiroshi Nishihara, Hiroki Nakae, Masayuki Yoshida, Hiroko Kohbata, Manabu Muto, Shigemi Matsumoto, Johji Inazawa, Toshihiro Tanaka, Akira Takemoto, Hiroyuki Nishiyama, Tomoyo Takeuchi, Toshihisa Takagi, Biobank Network for Promotion of Utilization of Biobank toward Realization of Genomic Medicine in Japan, ISBER 2020 Virtual Symposium, 2020.10.22-23, Online
5. Satoshi Nagaie, Makoto Hirata, Kotaro Hattori, Ryo Matsumura, Koji Kitajima, Reiko Miyahara, Eisei Noiri, Seiya Imoto, Shin Kawano, Mizuki Morita, Toshihisa Takagi, Yuichi Goto, Yoshinori Murakami, Soichi Ogishima, Minimum Common Data Elements of Cancer-specific Clinical Information and Consent Information for the Biobank Network in Japan, ISBER 2020 Virtual Symposium, 2020.10.22-23, Online
6. Mizuki Morita, Kotaro Hattori, Ryo Matsumura, Koji Kitajima, Reiko Miyahara, Eisei Noiri, Makoto Hirata, Seiya Imoto, Shin Kawano, Satoshi Nagaie, Toshihisa Takagi, Yuichi Goto, Yoshinori Murakami, Soichi Ogishima, Minimum Common Data Elements of Biospecimen Quality Information for Biobank Network in Japan, ISBER 2020 Virtual Symposium, 2020.10.22-23, Online
7. 佐藤悦夫「テオティワカン<月のピラミッド。出土の土器>新学術 A02 班研究発表 (2020 年 10 月)
8. 佐藤悦夫 (2021)「メキシコ、テオティワカン遺跡の土器 (ミカオトリ期からショラルパン期)」新学術第 4 回全体会議、ポスター発表 (2021 年 1 月)
9. バブリー ボグダン「政治を超えた言語—在日ウクライナ人が優先する言語についての研究—」ウクライナ研究会、第 43 回研究報告会、早稲田奉仕園 (2020. 07. 18)
10. バブリー ボグダン「ロシア語圏バイリンガル話者の視点から日本におけるロシア語及び英

語の使用の必要性についての実証的研究」言語文化学会、第 34 回大会、西南学院大学西南コミュニティセンター (2021.03.13)

11. 伊藤葵「総合型地域スポーツクラブにおける支援体制の在り方と今後の課題」日本スポーツ社会学会第 29 回大会、秋田大学、2020 年 6 月 20、21 日 WEB 開催
12. 川本聖一、富山市山田村における空家問題等に関する住民意識調査－「富山市空家等対策計画」と山田村の方向性－、日本建築学会 2020 年度大会学術講演会、2020 年 8 月

1.2 その他の発表・報告

1. 新森昭宏、「富山国際大学における IR の取り組み－オンライン授業とその評価を中心に－」、一般社団法人 学修評価・教育開発協議会 IR 研修会(2020 年 8 月 25 日)。
2. 新森昭宏、「富山国際大学における情報分野への取り組み強化について」、富山国際大学開学 30 周年記念シンポジウム(2020 年 10 月 31 日)。
3. 新森昭宏、卓話「デジタルトランスフォーメーション(DX)の動向と課題について」、富山南ロータリークラブ(2021 年 2 月 19 日)。
4. 一井崇、シンポジウム「富山発！ユニバーサルツーリズムの新たな可能性」、(公財)富山第一銀行奨学財団研究助成、富山県民会館(2021 年 3 月 7 日)
5. 川本聖一、地域の人々とともに進める空家コンバージョン－空家の有効利用による地域活性化－、第 24 回北陸地域の活性化に関する研究助成事業報告、2020 年)
6. 川本聖一、地域の人々と共に進める空家リノベーション、富山県建築住宅課主催講演会、2020 年 12 月 2 日
7. 川本聖一、地域の人々と共に進める空家リノベーション、高岡市建築士会講演会、2021 年 2 月 26 日

1.3 著書

1. 上坂博亨、大谷孝行、里見安奈(2021)「コミュニケーション力を高めるプレゼン・発表術」、岩波ジュニア新書、岩波書店
2. 助重雄久(2020) 富山県－山の恵みと交通網の充実で変化する産業、松井秀郎編『1964 年と 2020 年をくらべて楽しむ地図帳』山川出版社、pp.102-103
3. 助重雄久(2020) 石川県－異なる性格をもつ半島地域と山地・平野部、松井秀郎編『1964 年と 2020 年をくらべて楽しむ地図帳』山川出版社、pp.104-105
4. 助重雄久(2020) 福井県－首都圏との交流促進に向かう北陸「西玄関口」、松井秀郎編『1964 年と 2020 年をくらべて楽しむ地図帳』山川出版社、pp.106-107
5. 河江肖剰、佐藤悦夫 編 2021『ピラミッド Wonderland』グラフィック社
6. 古庄修、佐藤綾子(2021)「自治体の財務報告の枠組みと開示実務の課題」山浦久司編著『地方公共団体の公会計制度改革』pp.157-174、税務経理協会

1.4 学術論文

1. Eric W Deutsch, Yasset Perez-Riverol, Jeremy Carver, Shin Kawano, Luis Mendoza, Tim Van Den Bossche, Ralf Gabriels, Pierre-Alain Binz, Benjamin Pullman, Zhi Sun, Jim Shofstahl, Wout Bittremieux, Tytus Mak, Joshua Klein Yunping Zhu, Henry Lam, Juan Antonio Vizcaino, Nuno

- Bandeira, Universal Spectrum Identifier for mass spectra, bioRxiv 2020.12.07.415539, doi: <https://doi.org/10.1101/2020.12.07.415539> (2020).
2. Pavliy, B. (2020) “Bilinguals and multilinguals in a foreign language environment: A case study on the language use of Ukrainians in Japan.” SKASE Journal of Theoretical Linguistics, Vol.17 (3), pp.78-92, 【査読あり】
 3. Pavliy, B. (2021) “Language environment and aspects of life and traveling in Japan from the perspective of native speakers of the Russian language” 富山国際大学現代社会学部紀要第 14 巻第 2 号, pp. 19-30
 4. Yukari TAKAHASHI, Umi KAWAGO, Yohei SHIMASAKI, Yuji OSHIMA and Nobuo SUZUKI (2021), ” Simple Analysis Method of Hexavalent Chromium in Soil Using a Portable Device” J. Faculty of Agriculture, Kyushu University
 5. 佐藤悦夫、木下健一郎、木村建太、高田あゆ、寺田和沙、夏野敦、堀唯人、丸山貴弘、吉田光希、黄蓉、張晶 (2020) 「五箇山の観光客の動向に関する研究：2019 年調査と 2015 年調査の比較を中心に」 富山国際大学現代社会学部紀要 第 13 巻 第 1 号, pp. 1-14
 6. 高尾哲康 (2020)、映像からの姿勢推定処理を利用した子どものリスク評価の定量化、富山国際大学現代社会学部紀要第 13 巻第 1 号, pp. 15-21
 7. 伊藤葵 (2021) 「総合型地域スポーツクラブの成長過程における中間支援組織の役割」富山国際大学現代社会学部紀要第 14 巻第 2 号, pp. 1-18
 8. 佐藤綾子 (2020) 「地方議会における財務情報ニーズの重要性ー甲府市議会新型コロナウイルス感染症対策特別委員会の事例」『産業経理』VOL.80No.3, pp.53-67
 9. 川本聖一、武部奈津世、関寧、永井竜也、地域の人々と進める空家リノベーションその 3 - 地域の人々との協働の記録 -, 富山国際大学現代社会学部紀要第 13 巻2号, 2021 年 3 月
 10. 川本聖一、坪田はるか、大塚梨菜、小田海、「高齢化」するまちをサステナブルにするための研究ー「サステナブルなまち珠泉」に向けた産学プロジェクトー, 富山国際大学現代社会学部紀要第 13 巻2号, 2021 年 3 月
 11. 川本聖一、富山市山田村における空家問題等に関する住民意識調査ー「富山市空家等対策計画」と山田村の方向性ー, 日本建築学会 2020 年度大会学術講演文集, 2020 年 8 月

2. 紀要執筆状況

2020 年度 第 13 巻第 1 号(2020 年 10 月発行)

<論文>

- (1) 佐藤悦夫・木下健一郎・木村建太・高田あゆ・寺田和沙・夏野敦・堀唯人・丸山貴弘・吉田光希・黄蓉・張晶、五箇山の観光客の動向に関する研究：2019 年調査と 2015 年調査の比較を中心に, 123(1), pp.1-14
- (2) 高尾哲康, 映像からの姿勢推定処理を利用した子どものリスク評価の定量化, 13(1), pp.15-21

2020 年度 第 13 巻第 2 号(2021 年 3 月発行)

<論文>

- (1) 伊藤葵, 総合型地域スポーツクラブの成長過程における中間支援組織の役割, 13(2), pp.1-18

- (2) Bogdan Pavliy, Language environment and aspects of life and traveling in Japan from the perspective of native speakers of the Russian language, 13(2), pp.19-30

<研究ノート>

- (1) 川本聖一・武部奈津世・関寧・永井竜也, 地域の人々と進める空家リノベーション その3 - 地域の人々との協働の記録 -, 13(2), pp.31-48
- (2) 川本聖一・坪田はるか・大塚梨菜・小田海登, 「高齢化」するまちをサステナブルにするための研究, 13(2), pp.49-64

3. 競争的資金等による採択研究の概要

3.1 再委託研究開発費

- (1) 河野信: ライフサイエンスデータベース統合推進事業

3.2 文部科学省科学研究費補助金採択課題研究による研究プロジェクトの実施

<研究代表者>

- (1) 一井崇: ユニバーサルツーリズムの新たな展開と雇用を通じた地域形成に関する研究
- (2) 河野信: 質量分析によるアミノ酸配列 de novo 決定のための新規手法開発

<研究分担者>

- (1) 佐藤悦夫: 岡山大学分担研究
- (2) 佐藤悦夫: 愛知県立大学分担研究
- (3) 才田春夫: 早稲田大学分担研究
- (4) 尾畑納子: 富山高等専門学校

3.2 富山第一銀行奨学財団

- (1) 高尾哲康: 「スマホ映像から集団活動時のリアルタイム人物追跡」
- (2) 一井崇: 「ユニバーサルツーリズムの先進事例に関する調査研究及び同ツーリズムの促進に向けたシンポジウムの開催」

3.4 その他の共同研究・研究事業

- (1) 上坂博亨: 北酸共同研究「ドライタイプ発酵基礎実験」
- (2) 新森昭宏: インテック共同研究「大規模システム開発における IT ベンダーの社会的役割と責務」
- (3) 新森昭宏: ダイキン工業共同研究「読解支援のための言語処理技術の改良開発及びコーディング」
- (4) 川本聖一: とやま呉西圏域調査研究事業「山ぶどうワインの 6 次産業化を目的とするワインバー開設による地域活性化ー地域の人々と協働する休耕田と空家の有効利用ー」

4. 評価と課題

学会発表の件数は12件であり、2019年度の15件からやや減少した。科研費採択件数は、2017年、2018年においては新規採択はゼロ件、2019年度には1件、今年度も1件と全体的に低調な状況が続いている。紀要への投稿件数も年々減少している状況である。大学をとりまく状況が年々厳しくなっていることに加えて、コロナウイルス蔓延によって研究活動が制限されることも研究活動の低調化に拍車をかけたものと考えているが、アクティビティーの低下が気になるところである。今後、コロナワクチンの普及により大学や企業との交流が再び活性化されることで、研究面の活性も高くなることに期待したい。また、教員がより多くの時間を研究に割くためにも、学内事務のIT化等による作業効率化が重要課題である。学園

情報教育研究センター主導でいち早く効率化の仕組みづくりを推進していくことが望まれる。

14. 後援会・保護者対応

1. 実績と現状

(1) 後援会理事会・後援会総会

後援会総会への申込者数は2017年度が特に多かったが、2019年度は会場を従来の市内ホテルから東黒牧キャンパスに変更し、多くの参加者があった。大学の取組みに対して保護者が高い関心をもっていることは例年どおりである。2020年度はコロナ禍のため対面での総会は、開催せずに郵送による審議を行った。

表 15-1 理事会・総会の実施内容

年度	理事会	総会
2016 年度	平成 28 年 6 月 25 日（土） ホテルグランテラス富山 出席者数（理事）18 名	平成 28 年 6 月 25 日（土） ホテルグランテラス富山 申込者数 84 名
2017 年度	平成 29 年 6 月 24 日（土） ホテルグランテラス富山 出席者数（理事）15 名	平成 29 年 6 月 24 日（土） ホテルグランテラス富山 申込者数 120 名
2018 年度	平成 30 年 6 月 23 日（土） ホテルグランテラス富山 出席者数（理事）14 名	平成 30 年 6 月 23 日（土） ホテルグランテラス富山 申込者数 83 名
2019 年度	令和元年 6 月 14 日（金） 富山国際大学呉羽キャンパス 出席者数（理事）11 名	令和元年 6 月 22 日（土） 富山国際大学東黒牧キャンパス 申込者数 109 名
2020 年度	令和 2 年度 6 月 18 日（木） 富山国際大学呉羽キャンパス 出席者数（理事）13 名	書面審議

(2) 保護者相談会

保護者相談会への申込者数は、2018 年度から後援会総会時の相談者が大幅に増えていることが特徴で、教職員による個々の学生の指導の実態に対する保護者の関心の高さが伺える。

表 15-2 実施内容

年度	前期	後期
2016 年度	後援会総会時（6 月 25 日）に実施 事前にゼミ担当教員から保護者あてに 学生に関するコメントを送付 相談者数 36 名	大学祭時（10 月 29 日・30 日）に実施 事前にゼミ担当教員から保護者あてに 学生に関するコメントを送付 相談者数 51 名
2017 年度	後援会総会時（6 月 24 日）に実施 事前にゼミ担当教員から保護者あてに 学生に関するコメントを送付 相談者数 51 名	大学祭時（10 月 28 日・29 日）に実施 事前にゼミ担当教員から保護者あてに 学生に関するコメントを送付 相談者数 50 名

2018 年度	後援会総会時（6 月 23 日）に実施 事前にゼミ担当教員から保護者あてに 学生に関するコメントを送付 相談者数 70 名	大学祭時（10 月 27 日・28 日）に実施 事前にゼミ担当教員から保護者あてに 学生に関するコメントを送付 相談者数 35 名
2019 年度	後援会総会時（6 月 22 日）に実施 事前にゼミ担当教員から保護者あてに 学生に関するコメントを送付 相談者数 71 名	大学祭時（10 月 26 日・27 日）に実施 事前にゼミ担当教員から保護者あてに 学生に関するコメントを送付 相談者数 37 名
2020 年度	新型コロナ感染防止のため開催せず	令和 2 年 10 月 19 日（月）～10 月 23 日 （金）いずれも原則 17 時 00 分から 18 時 00 分までの間に実施 事前にゼミ担当教員から保護者あてに 学生に関するコメント送付 相談者数：46 名

（３）同窓会

ここ数年、卒業生の出席数は 20 名程度であり、卒業生の大幅な出席数増には至っていない。

表 15-3 実施内容

年度	内容
2016 年度	平成 28 年 8 月 27 日（土）、オックス・カナルパーク・ホテル 第 22 回総会および懇親会 出席者数 計 40 名 卒業生 22 名（人文 7、人文社会 3、地域 3、現代社会 5、子ども育成 2、 不明 1） 教育職員 11 名（学長、現代社会 5、子ども育成 5）、事務職員 2 名 同窓会役員 5 名
2017 年度	平成 29 年 8 月 26 日（土）、オックス・カナルパーク・ホテル 第 23 回総会および懇親会 出席者数 計 43 名 卒業生 22 名（人文 16、人文社会 1、地域 1、現代社会 4） 教育職員 14 名（大学長、短期大学長、現代社会 6、子ども育成 6） 事務職員 2 名 同窓会役員 5 名
2018 年度	平成 30 年 8 月 25 日（土）、オックス・カナルパーク・ホテル 第 24 回総会および懇親会 出席者数 計 38 名 卒業生 21 名（人文 13、地域 1、国際教養 1、現代社会 5、子ども育成 1） 教育職員 9 名（現代社会 3、子ども育成 6） 事務職員 3 名 同窓会役員 5 名

2019 年度	令和元年 8 月 24 日（土）、オークスカナルパークホテル富山 第 25 回総会および懇親会 出席者数 計 33 名 卒業生 18 名（人文 10、地域 1、国際教養 0、現代社会 6、子ども育成 1） 教育職員 11 名（学長、現代社会 5、子ども育成 5） 事務職員 1 名 同窓会役員 3 名
2020 年度	新型コロナ感染防止のため開催せず。

2. 今後の課題

（１）参加保護者との連携強化と情報伝達

後援会総会や保護者相談会には毎年多くの参加者があり、当該機会を教職員と保護者との対話・連携強化の場として今後とも活用する。出席された保護者に対して、総会では大学の頑張っている取組みを中心とした活動内容をしっかり伝達し、保護者相談会では、個々の学生に対するきめ細かな指導ぶりを伝えて、本学の面倒見の良さを伝える機会とする。

なお、2020 年度は、後援会総会は開催されなかった。

（２）同窓会出席者の増加

同窓会への卒業生の出席増加を図るためには、卒業生が大学とのパイプ作りを希望する必要がある、大学に何を望んでいるかを把握し、その要望に少しでも大学が応えてあげることが肝要である。大学が IT 化の更なる推進を掲げている一環として、卒業生の大学に対する要望を、紙媒体でなく通信の方法を使ってアンケート形式で吸い上げるとともに、例えばリカレント教育を通じて大学が、卒業生の職場で必要な知識や情報を提供できれば、卒業生とのパイプ強化につながる。

なお、2020 年度は、同窓会に係る活動は実施しなかった。